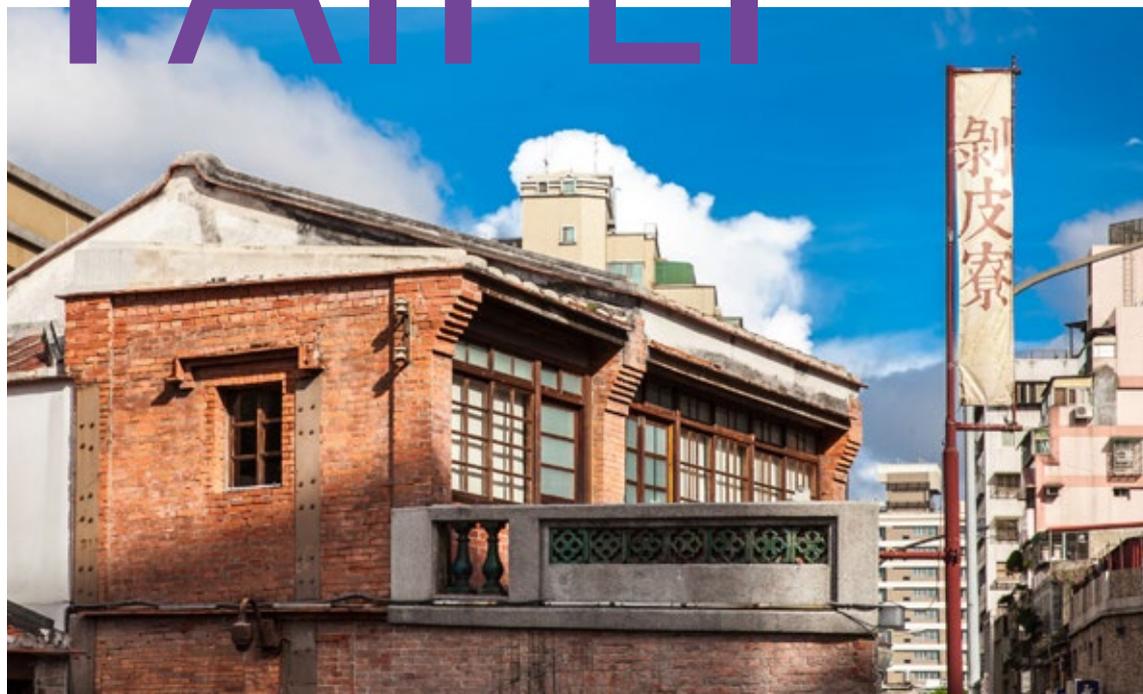


TAIPEI

冬季号
2016
Vol. 06



ありのままの庶民の生活
昔ながらの文化の都——艋舺

路地裏の名人を訪ねて
物語が呼び覚ます町の記憶



渡り鳥のようなドイツの旅人
自転車で台湾の自然に遊ぶ

20代、30代、40代

北村豊晴さんの映像人生



本誌は以下の場所で無料で入手できます。

台北市政府観光傳播局／
台北市觀光傳播局
Department of Information and
Tourism, Taipei City Government
1999 内線 7564 台北市市府路 1 号 4 階

台湾桃園國際空港第一ターミナル
到着ロビーのインフォメーションカウン
ター
Tourist Service Center at Arrival Lobby,
Taiwan Taoyuan International Airport
(03)398-2194 桃園市航站南路 9 号

台湾桃園國際空港第二ターミナル
出国ロビーのトラベルサービスセンター
Tourist Service Center at Arrival Lobby,
Taiwan Taoyuan International Airport
(03)398-3341 桃園市航站南路 9 号

美國在臺協會／アメリカ在台湾協会
American Institute in Taiwan
(02)2162-2000
台北市信義路 3 段 134 巷 7 号

遠企購物中心／遠企ショッピングセンター
Taipei Metro the Mall
(02)2378-6666 内線 6580
台北市敦化南路 2 段 203 号

國語日報語文中心／國語日報語学センター
Mandarin Daily News (Language Center)
(02)2341-8821 台北市福州街 2 号

臺北市立美術館／台北市立美術館
Taipei Fine Arts Museum
(02)2595-7656
台北市中山北路 3 段 181 号

聖多福天主教堂／
セントクリストファーカトリック教会
St. Christopher Catholic Church
(02)2594-7914
台北市中山北路 3 段 51 号

士林區公所／士林区役所
Shilin District Office
(02)2882-6200 内線 8725
台北市中正路 439 号 8 階

臺北士林劍潭活動中心／
台北士林劍潭市民センター
Shilin Chientan Overseas Youth Activity
Center
(02)2885-2151 台北市中山北路 4 段 16 号

南港軟體工業園區／南港ソフトパーク
Nangang Software Park
(02)2655-3093 内線 124
台北市三重路 19-10 号 2 階

臺北美國學校／台北アメリカンスクール
Taipei American School
(02)2873-9900 台北市中山北路 6 段 800 号

國立中正紀念堂／国立中正記念堂
National Chiang Kai-shek Memorial Hall
(02)2343-1100 台北市中山南路 21 号

台北當代藝術館／MOCA Taipei
Museum of Contemporary Art Taipei
(02)2552-3720 台北市長安西路 39 号

市長官邸藝文沙龍／市長官邸アートサロン
Mayor's Residence Arts Salon
(02)2396-9398 台北市徐州路 46 号

臺北國際藝術村／台北国際芸術村
Taipei Artist Village
(02)3393-7377 台北市北平東路 7 号

台北二二八紀念館／台北二二八記念館
Taipei 228 Memorial Museum
(02)2389-7228 台北市凱達格蘭大道 3 号

交通部觀光局旅遊服務中心／
交通部觀光局トラベルサービスセンター
Travel Service Center, Tourism Bureau,
M.O.I.C
(02)2717-3737 台北市敦化北路 240 号

西門紅樓／紅樓シアター
The Red House
(02)2311-9380 台北市成都路 10 号

光點台北／光点台北
SPOT-Taipei Film House
(02)2778-2991 台北市中山北路 2 段 18 号

臺北市政府市民服務組／
台北市役所市民サービスカウンター
The public service group of Taipei City
Government
(02)2720-8889 / 1999 内線 1000
台北市市府路 1 号

北投温泉博物館／北投温泉博物館
Beitou Hot Spring Museum
(02)2893-9981 台北市中山路 2 号

士林官邸／士林官邸
Shilin Official Residence
(02)2883-6340 台北市福林路 60 号

臺北市孔廟／台北市孔子廟
Taipei Confucius Temple
(02)2592-3924 台北市大龍街 275 号

松山文創園區／
松山文化クリエイティブパーク
Songsshan Cultural and Creative Park
(02)2765-1388 台北市光復南路 133 号

華山 1914 文化創意產業園區／
華山 1914 文化クリエイティブパーク
Huashan 1914 Creative Park
(02)2358-1914 台北市八德路 1 段 1 号

國立臺灣博物館／国立台湾博物館
National Taiwan Museum
(02)2382-2566 台北市襄陽路 2 号

臺北市旅遊服務中心／
台北市觀光案内所
Visitor Information Centers in Taipei
(詳細 P. 64 参照)

MRT 各駅
All Stations of MRT Lines

伊是咖啡／IS コーヒー
Is Coffee

摩斯漢堡／モスバーガー
Mos Burger

亞典圖書公司／亜典書店
Art Land Book Co. Ltd.
(02)2784-5166 台北市仁愛路 3 段 122 号

誠品書店／誠品書店
eslite Bookstore

金石堂書店／金石堂書店
Kingstone Bookstore

小説『流』に導かれ街かど探訪

クリスマスの鮮やかな赤に彩られた冬の台北は、相変わらず熱気にあふれています。

2015年に日本で直木賞を受賞した台湾にルーツを持つ作家、東山彰良さんの作品『流』は台北が舞台となっていて、懐かしい時代のシチュエーションを切り取っています。東山さんが描く中華商場には中国各地のふるさとの味が集まり、大人の読者の多くが制服を作った学生時代の青春を思い出すことでしょう。広州街に住んでいたという東山さんは、万華区の龍山寺や西門町にその足跡を残したり、植物園で初めての恋を語ったり、大稻埕の持つ古都の魅力にも惹かれています。

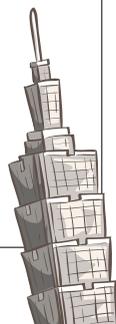
文学のまなざしと小説の足あとを手掛かりに、新旧の台北の異なる息遣いを際立たせてみました。龍山寺にけぶるお香は数十年の間も変わらず、華西街の食べ物はいつもこれを日当てに観光客が訪れる味わいです。若者が集まる西門町は、アートとファッションを代表するスポットとなっています。東山さんの大好きな植物園には珍しい草花と上品で素朴な史跡がたたずみ、迪化街の古い建物やここで売られる各地の物産、クリエイティブなスタイルに手の届きやすい価格のおいしい食べ物は、旅人が心身ともに満たされるパラダイスです。このTAIPEI冬号で、東山さんの台北文学の旅コースを一気にご紹介しています。

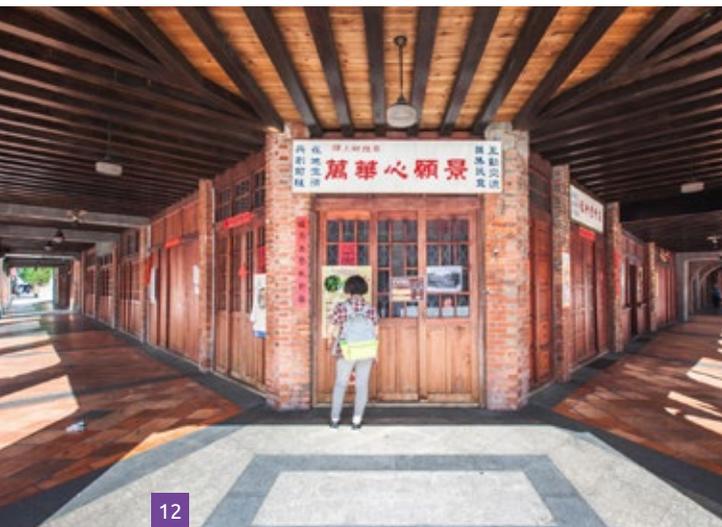
商業や工業の発達したテンポの速い社会では、手作りのぬくもりは何よりも大事です。熟練の職人が持つ伝統工芸へのこだわりは、台北の奥行きある文化を際立たせ、台北の物語をより豊かに鮮やかに彩ります。TAIPEI冬号は、万華の伝統的な漢餅やお茶の老舗、鍛冶屋さん、仏具店などを紹介しています。時代に応じて扱う品に移り変わりはあれど代々受け継がれたものは、昔ながらの味わいに加え、もっと大事な信頼です。

手作りの紙や筆を使うことで、ひと味違う感動はいかがでしょう？製紙の技は、なんとペンダントトップやランプシェードまで生み出しています。百年の歴史を持つ筆づくりの専門家は、手作りの筆からメイクアップ用ブラシを手掛け、老舗の看板に新たな息吹を添えます。伝統的なランタン工芸で技を存分に生かした素晴らしいアートが生まれたり、木工や錫、陶器など手工芸品は暮らしをセンス良く彩ってくれます。

文化と創意は街が持つパワーをよりふくらませる原動力です。TAIPEI冬号ではレッド・ドット・デザイン賞のCEOであり、ワールド・デザイン・キャピタル(WDC)の提唱者、ピーター・ゼックさんによる台湾のデザイン産業に対する踏み込んだまなざしを紹介しています。また、駐台北韓国代表部の前代表、任期を終えたばかりの趙百相(チョ・ベクサン)さん、台湾で活躍する日本人の映画監督、北村豊晴さんが台北の印象を大いに語ってくれました。

2017年の台北ユニバーシアードまで250日余り、今回は難病を克服した女子バレーボールの王欣婷選手と、台湾先住民、パイワン族のスケート選手、宋青陽選手の熱い闘いの物語をお届けします。台北ユニバに向けともに応援していきましょう！





12



50

目次

台北ユニバ特集

- 04 難病を乗り越え、自分と戦う
**女子バレーの
ポイントgetter、王欣婷選手**
- 08 2017台北ユニバ・
ローラースケート競技で金メダルを
スケートを履いた
パイワン族戦士、宋青陽選手

カバーストーリー

- 12 文学の世界と共に「流」れる町
台北旧市街地の今と昔
- 15 ありのままの庶民の生活
昔ながらの文化の都——艋舺
- 20 過去の輝きを取り戻した
アートを中心——西門町

- 24 活気溢れる青春の緑
異次元ジャングル「台北植物園」
- 26 レトロを味わう台北の旅
迪化街でグルメ堪能

台北の「今」

- 28 姉妹都市・友好都市に台北の魅力を発信
台北都市外交 それぞれの輝き
- 30 渡り鳥のようなドイツの旅人
自転車で台湾の自然に遊ぶ

台北を遊ぶ

- 32 「台湾は太平洋に浮かぶ真珠」
——趙百相さん
- 36 20代、30代、40代
北村豊晴さんの映像人生



36

芸術を楽しむ

- 41 路地裏の名人を訪ねて
物語が呼び覚ます町の記憶
- 46 伝統の技が生む紙と筆
手書きでしたための記憶
- 50 伝統の木・錫・陶芸
生活用品に手作りの温もり
- 56 華やかな輝きを支える技
ランタン職人・陳祖栄
- 59 デザインで暮らしを改善
レッド・ドット賞 CEO の信念
- 63 旅のお役立ち情報

TAIPEI 郵政割撥（郵便振替）での定期購読について：6期
振替口座番号：16630048
振替口座名義：台北市観光伝播局

台湾国内	NT\$180 元	(普通郵便で発送)
香港、マカオ	NT\$540 元	(航空便で発送)
アジア太平洋地域	NT\$660 元	(航空便で発送)
ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ地域	NT\$900 元	(航空便で発送)

TAIPEI

台北
冬季号 2016 Vol. 06




2017 臺北世界大學運動會
29TH SUMMER UNIVERSIADE

2017.8.19-8.30

発行人 簡余晏
編集長 謝佩君
副編集長 王宜燕
編集 司徒懿・林弘堯・李筱薇・林姿睿
整合行銷 莊淑媚・李炎欣
翻訳 津村葵・杉山悦子・平松靖史・富永圭太
デザイン・印刷 四點設計有限公司
Tel (02)2321-5942
Fax (02)2321-5944

台北市観光伝播局

住所 台北市市府路 1 号 4 階
Tel 1999 (台北市外からは 02-2720-8889)
内線 2029 または 7564
Fax (02)2720-5909
Email qa-juliast@mail.taipei.gov.tw
ISSN 24137774
GPN 2010402343

中華郵政台北雜字
第 1377 號執照登記為雜誌交寄
本号定価 NT\$30 元
本誌に対するご意見、ご希望などがございましたら、是非、E-mail
またはファックスにてお寄せください。



オンライン雑誌：
www.travel.taipei/jp > 旅行ガイド > 観光出版物

台北市観光伝播局
書面による許可なく本誌の全部または
一部を複製・複写することはできません。



本誌は大豆インクを採用しています。



難病を乗り越え、自分と戦う

女子バレーのポイントゲッター 王欣婷選手

文 — 謝瑩潔

写真 — 王欣婷、台北市観光伝播局



2015年に開催された韓国・光州ユニバーシアードで台湾選手団の旗手を務めた女子バレーボールの王欣婷選手は、すらりとしたプロポーションに女優の桂綸鎂（グイ・ルンメイ）を思わせる爽やかでナチュラルな雰囲気をまとい、優雅に歩く姿はまるで有名モデルかと思まごうばかりです。恵まれた体格に加え、テクニクにも秀でた彼女は現在、台湾電力の社会人女子バレーチームでポイントゲッターを務め、2017年の台北ユニバでもその力を存分に発揮すれば、地元台湾チームの金メダル獲得に大きく貢献すると期待を集めています。

難病に立ち向かう姿に スポーツマンシップ賞

王選手はバレーボールを始めたきっかけについて「小さいころ、日本のアニメ『東洋魔女（アタッカー YOU!）』が好きだったことがきっかけで興味を持ちました。それで学校のチームに入って以来、今まで続いています」と話してくれました。しかし、これまでのバレーボール人生は決して順風満帆とはいきませんでした。高校3年生の時には長いスランプに陥り、自分のプレーに納得が行かず、たびたび涙を流したそうです。そのため高校卒業後、一度は競技から離れることも考えましたが、父親に諭されてコートに立ち続けることを決めたといいます。

(写真／台北市観光伝播局)



得点を挙げた時はもちろんうれしいですが、最も楽しいのは練習であれ、試合であれ、皆がボールに全神経を集中するあの瞬間を味わうことです。(写真／王欣婷選手)

そして2009年、王選手は国の強化選手に続いて、台湾代表にも選ばれます。彼女のバレー人生は前途洋々に見えました、しかし、そんな矢先の2013年、彼女は突然「多発性硬化症」という難病を患っていると診断されました。「この病気は視神経に影響が出るため、焦点が合うのが遅れ、ボールが見えなくなる恐れがありました。あの時は私のせいでチームに迷惑がかかると、とても不安になりました」——当時の気持ちを王選手はそう振り返ります。

しかし、「起きてしまったことに悩んでも仕方がない」と気持ちに整理を付けた彼女は治療に専念するため、3カ月余り休養を取ることにしました。そのおかげで病状は徐々に快方に向かい、「今でもまれに目の焦点が合うのが遅れることはあるものの、その状態にも慣れ、対処する方法も身に付けた」そうです。

王選手は難病に負けることなく、強靱な意志でどん底から這い上がり、かつてと変わらぬプレーでコートに戻ってきました。そん

な彼女に2015年、その年に最も活躍したアスリートに送られる「精英奨」のうち、「最優秀スポーツマンシップ賞」が授与されました。その際、王選手は「自分の受賞がより多くの人に感動と勇気を与えることができれば」とのコメントを残しました。

リーグ戦で千ポイント達成 次はユニバの金メダル

王選手は現在、正修科技大学レジャー・スポーツマネジメント学部の4年生であると同時に、台湾電力バレーボールチームの一員

でもあり、午前中は仕事、午後は練習という忙しい日々を送っています。そんな中、今年6月、彼女は社会人バレーボールリーグにおいて個人で挙げた総得点が通算1,000ポイントを突破するという偉業を達成。チームの優勝に大きく貢献しました。それでも王選手は「1,000ポイント突破はうれしいけど、アタック数と得点率を見ればそれほど大したことはない」と謙遜します。

彼女はまた、練習と試合が違うように、社会人チームでのプレーと台湾代表でのプレーは全く感覚が異なると指摘します。代表チームは社会人リーグの各チームから選抜された優秀な選手で

編成されますが、上半期の社会人リーグと並行して代表合宿が行われたため、月曜から金曜までともに練習したメンバーと週末には対戦相手として試合を戦うことになったそうです。それぞれが互いに相手のプレーを熟知しているため、何とか勝利をものにしようとあらゆる手を尽くします。こういったプラスの競争がさらなる前進につながるのだと彼女は強調します。

王選手の夢はオリンピックに出場することです。そんな彼女は国際大会に出た際、自分の力以上のものを発揮して個人タイトルを獲得したいと考えるそうです。それは、世界のトップ選手を

仰ぎ見るのではなく、何とか自分をそのレベルにまで引き上げたいからだと言います。バレーボールという競技をプレーすることは一種の喜びだという彼女は「得点を挙げた時はもちろんうれしいのですが、最も楽しいのは練習であれ、試合であれ、皆がボールに全神経を集中するあの瞬間を味わうことです」と語ります。

来年開催される台北ユニバに向け、代表合宿で練習に励む王選手は、「ここでしっかりと力を付け、全員が実力の全てを出し切って台湾に金メダルをもたらしたい」と抱負を述べました。📌

王欣婷選手の主な成績（女子バレーボール）

- 2011年 オリンピック国家強化指定選手
- 2012年 台湾代表（ワールドグランプリ・オリンピック予選）
- 2013年 台湾代表（AVC アジアカラブ選手権）
- 2014年 台湾代表（東アジア地区女子選手権大会）
- 2015年 オリンピック国家強化指定選手、台湾代表（アジア選手権4位）、光州ユニバーシアードで台湾代表団の旗手を務める。





エバー航空
航空業界 最高評価
SKYTRAX 5スターエアライン

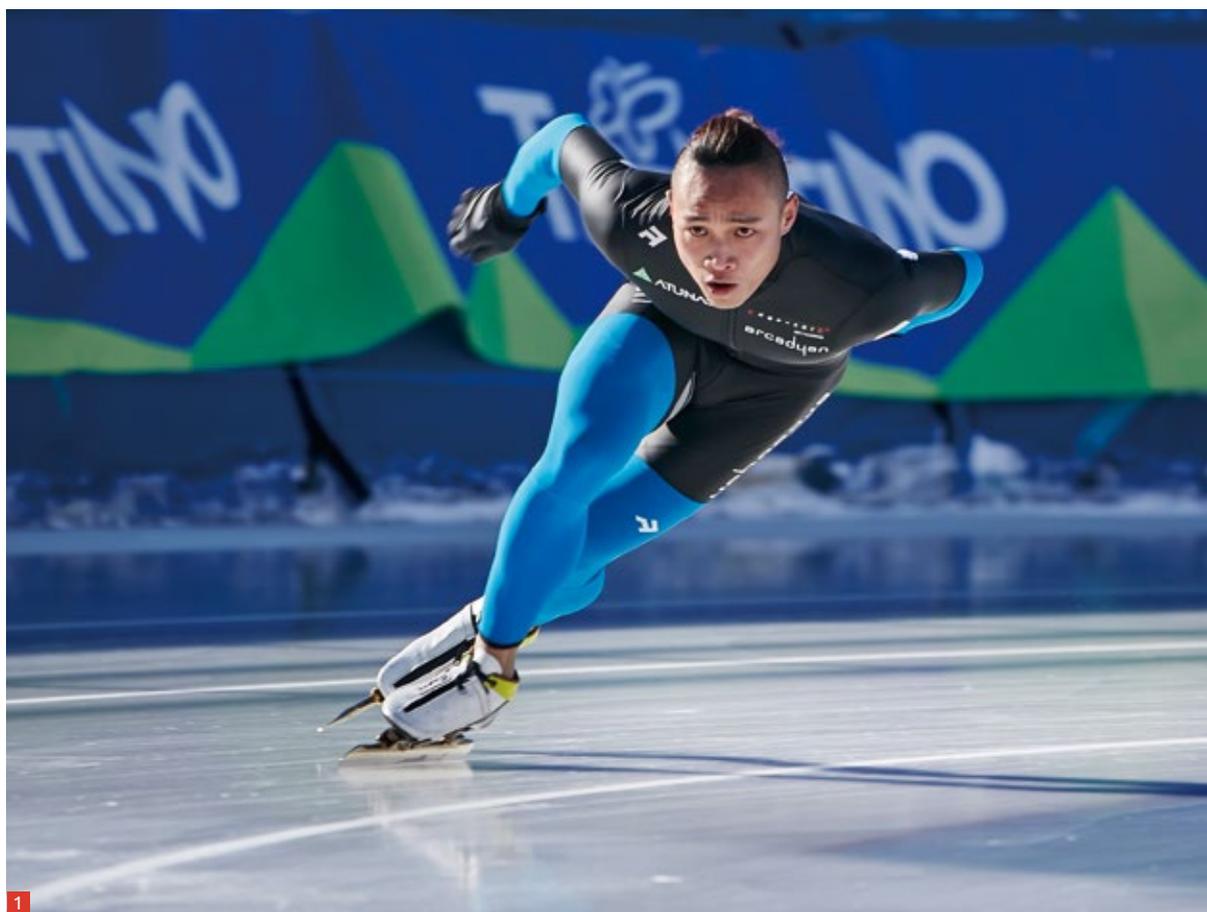


SKYTRAX社のエアライン・スター・ランキングは、毎年180を超える航空会社を対象に行っており、空港サービス、座席、機内用品、機内食、エンターテインメント、客室乗務員のサービス等、多岐にわたる項目を調査して決定されるものです。星5つ、「5スター」が最高評価となっています。

2017 台北ユニバ・ローラースケート競技で金メダルを スケートを履いたパイワン族戦士 宋青陽選手

文 — 謝瑩潔

写真 — 李庭欽、王冠文



台湾先住民の間で神とあがめられるヘビ「ヒャップダ(百歩蛇)」をデザインしたウェアに身を包み、頭の両脇を剃り上げ、残した髪をポニーテール状に結んでコースを滑走する姿はまるで、鋭利な狩猟刀が空気を

切り裂き飛んでいるかのよう。2017年に開催される台北ユニバーシアードのローラースケート競技に出場するパイワン族出身の宋青陽(先住民名・パガラファ・ランアラン)選手が狙う獲物は4個の金メダルです。

1. 宋青陽選手はローラースケートとアイススケートの両方に取り組み数少ない選手の一人。(写真/王冠文)

2. 2017 台北ユニバでのメダル獲得に自信を見せる宋青陽選手。(写真/李庭欽)



れました。そんな彼に天賦の才能があると感じた戴パパは、その力を引き出そうと小学校5年生の時、彼を連れて中国へわたり、トレーニングを受けさせました。

そして17歳で初めてローラースピードスケート世界選手権のジュニア部門に出場した宋選手はいきなり5個の金メダルを獲得。当時を振り返る宋選手は「感動のあまり涙し、自信も付いた」と語ります。さらにその翌年には、全民運動会（日本の国体に相当）、アジアローラースポーツ選手権大会、アジア競技大会で計9個の金メダルと1個の銀メダルを獲得するという驚異の成績を挙げました。

しかし2012年、宋選手は中華民国ローラースポーツ協会とのトラブルから「3年間の競技活動禁止」処分を受けました。「愛するローラースケートのレースに3年間出られないという状況がとてもつらく競技を引退も考えたという彼でしたが、その後、戴パパの勧めでアイススケートの練習を開始しました。」ただ宋選手によると、アイススケートは氷との接触面が小さく、抵抗も少ないため正確かつ素早い動作が必要で、ローラースケートとは

風を切って前進する 「かけもち」スケーター

台東県金峰郷ルラケス部落出身の宋選手は、幼い頃にコーチの戴永松氏にその才能を見出され、20年にわたり二人三脚で台湾ローラースケートおよびアイススケート界に次々と伝説を打ち立ててきました。

宋選手が「戴パパ」と呼び、人生の師と仰ぐ戴永松コーチはもともと、同選手の両親が働いていた建設現場の主任で、アマチュアのローラースケート指導者でもありました。宋選手は幼いころ、戴コーチの子供と一緒にローラースケートを楽しみ、その風に乗るようなスピード感に魅了さ

「バスケットボールとコーフボール(バックボードに跳ねたショットでも得点できるか完全なエアボールしか認められないか)」ほどの違いがあるそうです。そのため彼はこの時のことを「まったく一からやり直しだった」と振り返っています。

こうして、レースへの参加を禁じられた宋選手は台湾では珍しい「かけもち選手」となり、1年余りのトレーニングを経て冬季オリンピックのスピードスケート種目出場を目指すことを決意。しかし、500メートル36.7秒の壁を越えられず、「こんな記録では出場資格が得られない」と失望する日々が続きました。ところがカナダで行われた試合で突然、35.2秒という記録を叩き出し、さらに世界選手権で34.64秒とタイムを縮め、見事、2014年ソチ五輪の出場権を獲得。台湾初の冬季オリンピック・スピードスケート種目出場を果たしました。

先住民魂で 栄光をつかみとる

スポーツの世界で生きるということは孤独でつらいもの。ソチ五輪に備え、ドイツのスケート学校で3カ月の特訓を積んだ宋選手は「外国人選手は私のことをあま

り口をきかない変なやつだと感じたと思う」と話しますが、その実力は彼らを驚かせ、オランダのスケート雑誌にも取り上げられました。

しかし、腰のけがが影響してソチ五輪では思うような成績を残せませんでした。これをきっかけに彼は不転の決意を示そうと思いついて頭を剃り上げ、さらにその後、中央部だけを残してポニーテール状に結ぶというヘアスタイルに変えました。そんな独特な出で立ちでコースに立つ宋選手は「先住民として恵まれた爆發力と協調性という長所に自分の努力が必要です」と言います。また、ローラースケートでもアイススケートでも風よりも早く走

ることを目指し、「チーターが獲物を狙うように栄光をものにしたい」と抱負を語ります。

2015年、宋選手はアジア距離別スピードスケート選手権大会の500メートル競技で8年間破られることのなかった大会記録を塗り替えて金メダルを獲得しました。その試合の後、彼はローラースケート競技にも復帰し、全民運動会で台湾記録を更新して2個の金メダルを獲得。競技活動禁止というつらい時期を脱し、2つの競技に思う存分取り組めるようになった宋選手は「2017年の台北ユニバで金、さらに2018年の平昌冬季五輪でもメダルを取りたい」と自信にあふれた表情で語りました。↑



宋青陽選手の主な成績

- 2009年 ローラースピードスケート世界選手権ジュニア部門：
300m / 500m / 1,000m / マラソン / リレーで優勝
- 2010年 全民運動会（ローラースケート）：
300m / 500m / 100m / リレーで優勝
アジアローラースポーツ選手権大会：300m（コース） / 500m（コース） / 200m（ロード）で優勝、500m（ロード）で準優勝
アジア競技大会（広州）：300m / 500mで優勝
- 2011年 アジアローラースポーツ選手権大会：200m（ロード）で第3位
- 2013年 冬季ユニバーシアード（スピードスケート）：1,000mで第3位
- 2015年 冬季ユニバーシアード（スピードスケート）：500mで第3位
アジア距離別スピードスケート選手権大会：500mで優勝
（大会記録更新）
全民運動会（ローラースケート）：300m / 500mで優勝

オンラインで24時間あなたの旅をサポート

 事前座席指定

 E-チェックイン

 航空券の予約・購入

 E-メニュー

 E-ショッピング



あらゆるサービスを ワンストップで

-  航空券の予約・購入：24時間いつでもどこでもご出発の準備。
-  事前座席指定：窓側でも通路側でもお好きな座席をスマートに選択。
-  E-チェックイン：チェックインはご自宅で。空港では快適なお時間を。
-  E-メニュー：お好みの食事をオンラインで予約して素敵な機内食を。
-  E-ショッピング：免税品も事前予約。ご希望のものを機内でもれなく。

新しくなったチャイナ エアラインのウェブサイトへようこそ





文学の世界と共に「流」れる町 台北旧市街地の今と昔

文 許慈倩
写真 施純泰、王能佑

1

台北を好きになる理由はたくさんあります。いま、歴史を切り口に好きになるのがトレンドになっているようです。

台北は進化を続ける町です。大きな建築物、豪華なオフィスビル、おしゃれなショッピングセンターがあり、整備された交通網と通信ネットワークでつながっています。しかしこの進歩は破壊を代償としたものではありません。台北では

新たな建築と創造のほか、この町が内に秘めた味わいと歴史の深さを目にすることができます。

近年、台北市は忠孝橋のランプウェイを解体して北門広場を復活させるなど、旧市街地の整理を進めています。台北市民が昔の姿に親しむだけでなく、外国の人々もさまざまな顔を持った台北の色彩豊かな美しさを深く感じることができます。

さらに人々の心を動かすのは、時間というベールを開いて歴史を深く探ると見えてくるこの町の成り立ち、そしてその美しさと哀愁です。

東山彰良さんの描く台北

白先勇さんの『台北人』から東山彰良さんの『流』まで、台北は異なる世代、異なる歴史の雰囲気の中で多くの作家にインスピレーションを与えてきました。と



1. 台北旧市街地は魅力的な歴史の香りがただよいます。(写真／施純泰)
2. 緑豊かな台北植物園はかつて若者に人気のデートスポットでした。(写真／王能佑)



くに『流』はまさに現代の台北人が共有する思い出が背景となっている作品です。

1950～1970年代生まれの台北人にとって、『流』は情感豊かな青春を描いた小説というだけではなく、それぞれの場面がありありと目に浮かんでくる作品です。例えば、今はもう過去のものとなった中華商場には中国各地の美食と家庭料理が集まり、当時国民政

府と共に台湾へ渡ってきた軍人とその家族が故郷を懐かしんだものでした。また当時、学生服や学校名の刺繍を注文するのでもここでした。東山さんのペンによって中華商場の狐仙廟が中国と台湾の民間信仰をつなぎ、すでに失われた場所に神秘的な息づかいを添えています。

東山さんは子どもの頃、広州街に住んでいました。大きくなるに

つれて、彼の足跡は万華、西門町へと広がっていきます。これらの場所はいずれも台北市が近年重点的に再開発を進めている地域です。『流』に登場するさまざまな人たちが雑多に入り乱れる世界は、現在では台北の「ルネサンス」の基地へ姿を変えました。年配の人が昔を懐かしむだけでなく、若者が創意を發揮して才能を開花させる場に生まれ変わったのです。



『流』の中に当時の若者がデートした公園が出てきますが、ここは現在もまだ緑豊かな台北植物園です。東山さんはここについて詳しく描いていて、初恋の喜びを知るだけでなく主人公が祖父の不審な死について手がかりを探す場所としても登場します。これらの風景や人物描写を通じて、私たちはかつての台北人の暮らしを垣間見ることができます。

台北旧市街地の中でも、大稻埕は今も昔も最も重要な地区で、台北を理解し、台北の魅力を感じることができる、東山さんおすすめの場所でもあります。

時空を超えて、台北を旅しましょう。直木賞作家の東山さんと受賞作『流』が、あなたを案内してくれます。甘酸っぱい青春の記憶はここから始まります！**T**

-
3. 昔の列車が東山彰良さんのペンによって昨日のことにように目の前に蘇ります。
(写真／施純泰)
-



ありのままの庶民の生活 昔ながらの 文化の都——艋舺

文 — 許慈倩
写真 — 施純泰

かつて万華は艋舺（マンガ）と呼ばれる台湾三大都市のひとつでした。大変賑わった街だったため、この地域では交通網が発達しました。東山彰良さんが幼少期を過ごした広州街は当時中華路と平行に走っていた鉄道によって東西に分かれており、片側には国民政府と共に台湾へやってきた外省人が、もう片側にはそれ以前から定住していた本省人が住ん

でいました。鉄道は二つの世界の境界線となり、異なる背景を持つ人々の言語と生活習慣を分けていたのです。子どもだった東山さんを想像しながら広州街から鉄道を渡って西へ進み、剥皮寮や龍山寺へ行ってみましょう。あるいは子どものような好奇心と恐れを抱きつつ、小説『流』に登場する万華のやくざたちの血気盛んで殺気立った雰囲気を感じてみましょう。さらに華西街ではヘビをさばく昔ながらの風景が、庶民

の生活にあるもうひとつの顔を伝えています。

中華商場は人々に惜しまれつつ取り壊されましたが、万華には人々に永遠に呼びかける故郷の声が暮らしの中に残っています。現代の子どもたちが知る万華と先人たちが知る万華はあま

1. 近年では多くの芸術家都在这里で展覧会を行ったり創作に打ち込んだりしており、剥皮寮にアートの力を注入しています。（写真／施純泰）

1





り変わりません。赤レンガで作られた剥皮寮、線香の煙が立ち昇る龍山寺、観光客の絶えない華西街、薬草の香りに満ちた青草通り、タンクトップとサンダル姿で街を歩く地元の人たち、老舗の食堂の数々。日本に長く住む東山さんにとってこれらの風景は記憶の中の美であり、変わることなく台北に思いを馳せる神秘的な絵巻物でもあるのです。

生活の拠り所 龍山寺と青草通り

その神秘的な絵巻物の中で最も色鮮やかな建物は艋舺龍山寺です。

200年以上の歴史を持つこの寺はずっと信仰の中心であり続けています。それだけでなくその建築芸術と神話も人々を魅了しています。1年を通じて多くのお祭りや儀式が行われていますので、もし人々の信仰の力を感じたいのならぜひ参加してみてください。龍山寺の名が知られている理由は、二級古跡として長くこの土地を守っているからだけではありません。周辺のグルメも人々を引きつけ、両喜号魷魚羹（イカのとろみスープ）、周記肉粥（お粥）、龍都冰菓（かき氷）などの専門店はいずれも地元ならではの美味しさです。

龍山寺のそばにある西昌街224巷は50メートルもない長さの通りですが、「青草通り（青草巷）」として知られています。線香の香りに満ちた龍山寺を訪れた後に青草通りへ行けば、薬草の香りが私たちの心をさらに楽しくさせてくれます。龍山寺と青草通りは隣同士なので、40～50年前から近所に住む人々は体調が良くない時、まず龍山寺へ行って薬籤（神様にどんな薬を飲んだらよいか聞くおみくじ）をひき、それから青草通りで薬の材料を買うようになりました。しかし1981年頃、政府は医薬条例の妨害になる



4

2. 200年以上の歴史を持つ艋舺龍山寺は地元
に暮らす人々の信仰の中心であり、旅行者
が必ず訪れる観光地です。(写真/施純泰)
3. 東山彰良さんにとって、万華は人々に永遠
に呼びかける故郷の声です。(写真/施純泰)
4. もし人々の信仰の力を感じたいなら、ぜ
ひ艋舺龍山寺を訪れてください。(写真/
施純泰)

として寺に薬籤の提供を禁止したため、神様に病気を治していただくというこの風習はなくなってしまいました。

しかし現在の青草通りは昔以上の魅力を持っています。旅行者も少し注意してみれば、この通りがよく整備されていることに気づくでしょう。透明の屋根が明るい陽射しを取り込み、風通しのよい設計によって青草の新鮮さを保てるようになっていきます。この清々しい町の一角は市民のオアシスであり、旅行者に人気の観光地であり、また学校の郷土学習の

場ともなっています。街歩きの途中で青草茶を飲んでみてください。一口飲めば暑さと喉の渇きが和らぎ、昔の人々の知恵が口に広がります。外国人旅行者もここを訪れ、漢方医学の薬材について知りたいと思うでしょう。

郷愁さそう美食 広州街と華西街

広州街はおそらく『流』に最も多く登場する通りでしょう。主人公はこの通りで外省人の人々の姿を目にし、彼らの故郷の言葉やあちこちから聞こえる犬とニワトリの声を聞きました。歳の近い子ども

たちが仲間になったり他人になったり、そんな成長する中で受けた傷と痛みはいずれも過ぎ去った幼い頃とその時代の証です。いじめられたことは秘密でも恥ずかしいことでもないのです。

現在の広州街は『流』に出てくるような、時々豆花(豆腐プリン)を売る声や露店の売り子が自分の人生を語る声が聞こえてくる素朴な住宅地ではありません。今の広州街はとても賑やかで、夜市では屋台が所狭しと軒を連ねる台湾B級グルメの天国です。ゲームができる屋台も多くあり、一家



5



6

で出かけて台湾の庶民文化の活力を感じるのにふさわしい場所となっています。

台北旧市街には昔ながらの魅力的な食べ物が数多くあり、広州街、華西街、それぞれにファンがいます。桂林路と広州街の間にある華西街は台北初の観光夜市です。目を引く入り口の門をくぐれば通りの両側に赤いランタンが掛けられ、夜になると人の流れを照らします。この賑やかな通りは外国人観光客

にとっては必ず訪れるべき場所のひとつになっています。かつてはへびをさばくショーを見るために多くの観光客が訪れたものでした。現在ではそのような店は減りましたが、「亜州毒蛇研究所」という店ではさまざまなへび料理を出しており、観光客の度胸試しをしています。このほかにも碗粿（米をすりつぶしたものに豚肉などを入れて蒸したもの）、愛玉ゼリー、担仔麵など見逃せないグルメがたくさんあります。

アジアのナイトマーケットは海外の観光客にとってとても魅力的なものです。万華の台湾グルメは中でも一番だと言えます。ここへ来たら通り過ぎるだけではもったいないですよ！

復古と新しい流れ 文化の変化

広州街、康定路と昆明街の間にあるのが今人気の剥皮寮歴史街区です。この周辺は清朝時代から万華と他の地域を繋ぐ主要な道路が



走る場所でした。今も当時の街並みの一画が残されており、映画『モンガに散る』で有名になった後、国内外からの観光客がかつての風情を楽しむために訪れるようになりました。建物や文物の鑑賞だけでなく、近年では多くの芸術家都在这里で展覧会を行ったり創作に打ち込んだりしており、剥皮寮にアートの力を注入しています。

昔を懐かしむ以外にも、万華の大理街一帯は女性ならぜひ訪れた

い場所です。艋舺服飾商圈には最盛期に1,000軒以上の服飾店が立ち並びました。既製服を売るだけでなく、デザイン、型紙取り、製造から販売まですべてを行い、価格も手ごろで品質も優れていました。初期には多くの人々が大稻埕の迪化街で布を買い、大理街で服を作ってもらっていたそうです。現在では既製服の販売が主で、レディースファッションと子ども服が揃っています。大理街で買い物することは女性の「おしゃれのキーワード」なのです。📍

5. 艋舺には見逃せない伝統的な台湾グルメがたくさんあります。(写真/施純泰)
6. 龍山寺のそばにある西昌街224巷は50メートルもない長さの通りですが、「青草通り」として知られています。(写真/施純泰)
7. 華西街観光夜市の目を引く門。人通りが絶えず、海外からの観光客も多く訪れます。(写真/施純泰)



過去の輝きを取り戻した アートの中心——西門町

文 _ 許慈倩

写真 _ 施純泰、賴建宏、呂恩賜、台北市觀光傳播局

タトゥー、人気の音楽、流行の服、輸入製品、映画。現在の西門町は若者のサブカルチャーの聖地です。しかし清朝時代は市街地の外に位置する手つかずの地域でした。日本統治時代に入り、日本政府はその力を示すため西門町にハイセンスな娯楽を中心とした商圈と日本人の宿舎を作りました。50年続いた日本統治の間に台湾の人々は日本の流行や文化の影響を受け台湾初の映画館が建てられ、西門町

は映画娯楽の発祥地となりました。第二次世界大戦が終わって多くの外省人（戦後国民政府とともに台湾に渡ってきた人々）が台北へやってくると、とくに商売上手な上海人たちがここでデパートを経営しはじめ、エンターティメントとショッピングの楽園が生まれました。1960年代には中華商場が完成して市街地とひとつになり、西門町は台湾でも有数の商業と娯楽の中心となったのです。

小説『流』の中では、西門町はすでに全盛期を過ぎながらも、やはり若者たちに一番人気の場所として描かれています。当時、チンピラや家や学校から逃げ出した子どもたちは西門町へ集まって、ビリヤードか喧嘩に明け暮れるという退屈な青春を過ごしていました。しかしあの時代の若者にとって西門町は行き場のないエネルギーを発散できる場所であり、たったひとつの生命の証を刻む場所だったのです。





『流』では西門町の描写はあまり多くありませんが、この地域の盛衰は小説にたびたび登場する中華商場と関連があります。1990年代に中華商場が取り壊され、大規模な交通整備が進むと台北の西エリアは交通が不便になり、西門町からもかつての賑わいが失われました。しかし10数年前に台北市が歩行者天国のショッピングエリアを作り、また歴史的建築をリノベーションしてこの町の歴史と文化の価値を取り戻すと、西門町の賑わいはついに人々の目の前に再び現れることとなりました。

西門紅樓で蘇る 芸術と文化

MRT 西門駅を出て歩行者天国へ行くにしても成都路へ行くにしても、この赤レンガの建築に敬

意を込めたまなざしを注がずにはいられないでしょう。昼間は優雅で、夜は煌びやかな西門紅樓は100年余りに建設されました。台北の娯楽の中心地であり続け、映画や芝居が若い学生たちの視野を広げ、台湾へやってきた外省人たちの心を慰めました。

しかしこの西門紅樓は最初、台湾初の公営市場として作られた建物でした。現在台湾で最も完全な形を保っている三級古跡の市場建築であり、赤レンガで八角形に囲んだ壁に市場の入り口が設けられていますが、当時としてはかなり斬新なデザインでした。

2011年の西門市場再開発計画により、紅樓はかつての華やかさを取り戻すこととなります。翌

1. 近年、西門町はアート交流の場となり、台北市文化基金会はさまざまな取り組みによって西門紅樓を新しい文化創造の象徴とすることを目指しています。(写真/施純泰)
2. 西門紅樓は、台湾初の公営市場として作られた建物で、台湾で最も完全な形で保存されている三級古跡の市場建築です。(写真/呂恩賜)

年には紅樓劇場が開幕してさまざまな演目が上演されるようになり、紅樓市場に楽しさと賑やかさが戻ってきました。さらに政府や自治体、企業などの注目を集め、多様なアートイベントや創作グッズの販売が活発に行われています。八角楼の二楼劇場、十字楼の16工房、河岸留言、北広場のクリエイティブマーケット、南広場の屋外カフェスペース、月光映画館などで行われるイベントによって、西門紅樓は台北西エリアのアート交流の場となりました。



りのテーマが北広場の休日を楽し
しい雰囲気でも込み込み、観光客も
訪れて創意あふれた商品を買
求めています。また南広場の屋外
カフェスペースでは、夜になると
若者たちが集まっておしゃべり
を楽しんでいます。さらに LGBT
フレンドリーのバーもあり、アジ
ア全域で有名になっています。

それぞれの年代の西門町

100年前に最先端だった公共市
場から現在の熱気あふれる歩行者
天国まで、どの年代でも流行の商
売はこの西門町から生まれます。

1980～1990年代には紅包場(歌
劇場)が流行し、大人気となりま
した。その流行が去ると、生演奏
が聞ける西洋式のレストランが若
者のお気に入りとなりました。現

この中の16工房は「生活文創百
貨＝暮らしを創造するデパート」
として、西門紅楼の新旧を融合さ
せた独特の空間を作り出してい
ます。それだけでなく台湾のアー
ト雑貨が集まって豊かな創作の
パワーを生み出しており、国際的
な交流やコラボレーションも行
われています。週末に紅楼広場
で行われるクリエイティブマー
ケットでは若いアーティストた
ちが賑やかに露店を広げ、月替わ



在、若者に人気のライブパフォーマンスは西門町でも行われており、河岸留言、legacy mini といったライブハウスがこの町に生まれた音楽のパワーを示しています。また台北市文化基金会は今後、紅樓茶坊の経営や資料展示、アート雑貨マーケットや文化クリエイティブ発展センターなどの運営を通じて、西門紅樓を新しい文化創造の象徴とすることを目指しています。

西門紅樓は新しい文化をリードする存在です。西門エリアにあるおしゃれな美容院、麻辣火鍋、ドリンクスタンド、カラオケ、バックパッカー向けのホテルなどはすべて時代の産物であり、西門町の流行と文化を生み出しています。『流』で描かれた時代と異なるのは、現在の西門町は芸術の

多様さと自由さが花開き、ひとりよがりではなく、若者たちは志が合えばすぎさま力を合わせるころでしょう。タトゥー、ストリートダンス、カフェ、あるいはかつて年配者がやっていた文化ガイドの仕事など何でも若者たちは熱心に取り組み、いつも西門町の異なる姿を見せてくれます。

若者のサブカルチャーからアートまで創意と文化がそこかしこに花開き、多くの人々が青春を過ごした西門町は永遠に驚きに満ちています。また流行の輝きの中にも歴史の奥深さがあります。西門紅樓から遠くない西本願寺も再び人々の前に姿を現し、日本風の静かで優雅な雰囲気を感じ出しています。西門の繁華街で日本や韓国の流行を感じた後はこの静かな場所を訪れ、西本

3. 河岸留言などライブハウスは西門町に生まれた音楽のパワーを示します。(写真/呂恩賜)
4. 西門町は映画娯楽の発祥地。現在も「映画館通り」があります。(写真/台北市觀光傳播局)
5. 現在の西門町は若者のサブカルチャーの中心です。(写真/賴建宏)
6. 日本の風情にあふれた西本願寺。現在はアートとレジャーの場になっています。(写真/施純泰)

願寺広場で日本式のアフタヌーンティーを楽しんだり、創意あふれるカフェで文学的な雰囲気を味わってはいかがでしょうか。賑やかでなければ素晴らしい場所ではないとは限りません。変わるものも変わらないものもある西門町。アートの町・西門の本当の顔は、人々に絶えることのない活力と創意を感じさせてくれます。T

— 植物園 —



活気溢れる青春の緑 異次元ジャングル 「台北植物園」

文 — 許慈倩

写真 — 台北市観光伝播局、施純泰

青春小説として東山彰良さんの『流』をとらえると、初恋の場面で何度も登場する「台北植物園」には、味わわずにはいられない旧市街の余韻が満ち溢れています。主人公の葉秋生は当初、祖父の死の真相を究明するため頻繁に台北植物園へ足を運びますが、これをきっかけに恋が始まります。民国 60～70 年代（1971～1990 年）、台北植物園は朝から晩

までにぎやかで、早朝はお年寄りが太極拳や体操、社交ダンスを、日中は多くの児童・生徒・学生がハスの花が咲く池のほとりで写生を行い、夜はカップルのデートスポットとなりました。秋生が毛毛を夜の台北植物園に連れて行ったことは、二人が恋人関係を明確にしたことを意味します。小説では、「竹林も、池のほとりも東屋もカップルたちが所狭しと

腰掛け、まるで電線に止まるスズメのように、常に陣取り合戦を演じていた」と描写しています。

今の世代の人たちは誰憚ることなく恋愛を楽しみ、街全体が恋人たちのステージになっています。台北植物園は今でも、お年寄りが早朝の運動に勤しむ場所であり、写生、ハス絵画、写真撮影の聖地でもあります。台北植物園





と、園内にある多くの歴史的建造物の集合体「南海学園」は依然強い存在感を放っています。

草花に映える古蹟の美

しかし、東山彰良さんが惚れ込むのは、陰で酷暑を遮る熱帯植物や、真夏に綺麗に咲くハスの花畑です。120年の歴史を持つ台北植物園は敷地数万坪、園内で栽培している植物は1,000種に上り、都会ではなかなか見られない植物教室と言えます。四季を通じて緑と色とりどりの花を楽しめるほか、豊かな文化の香りも味わえます。3,000年前の新石器時代の「植物園文化」遺跡が園區全体と建国中学校一帯に広がっており、市の指定史跡の「欽差行臺」も園内にあります。欽差行臺とは清朝の時代に台湾に建てられた最大規模

の政府機関で、計18棟の建築物から成っていました。今日では、最後の台湾巡撫(1885年に台湾省設置後の台湾における最高地方統治官として設置された官職)、唐景崧が設置した籌防局の正門と一部の庁舎しか残っていません。日本統治時代の初期、台湾総督府の事務室は籌防局に設けられたため、現在の総統府が完成する以前、ここは台湾の最高の行政機関だったのです。足を止めてゆっくり眺めてみると、官庁の威厳と建築物の優雅さと慎ましやかさを感じられるでしょう。

台北植物園内の歴史博物館ではよく展示会や芸術・文学イベントが開催されています。参観のついでに園内を散策し、数多くの美しい、珍しい草花を鑑賞してみて

1. 台北植物園で旧市街の余韻に浸りましょう。(写真/台北市観光伝播局)
2. 早朝の台北植物園で太極拳や体操をしている人をよく見かけます。(写真/施純泰)
3. 市の指定史跡の「欽差行臺」も台北植物園内にあります。(写真/施純泰)

ください。園内には干支の動物にちなんだ植物を集めたコーナーや、中国最古の詩集「詩経」に登場する植物のうち約90種を集めたコーナーもあります。恋人と散歩しながら会話を交わしたり、文学青年らしく写真撮影や写生に興じたり、ベンチに腰掛けば一っとながら日々の疲れを取るのもいいでしょう。植物園は単なる「都市の肺」でなく「都市のオアシス」でもあり、ゆったり散策してみると贅沢な幸せを堪能できるはずです。📍



レトロを味わう台北の旅 迪化街でグルメ堪能

文 _ 許慈倩

写真 _ 施純泰



きですが、海外からの観光客もここで華やかなショッピングセンターとは違う特別な買い物が体験できます。

昔と変わらない姿で保存されている旧街道に加え、ここ数年オープンした文化クリエイティブ路線の店が若者の客足を引き付けています。東山さんは以前、リノベーションされた古い建物「聯芸埕」でお茶を楽しみながら新旧が交錯するひと時を過ごしたことがあります。大稻埕にいるとついノスタルジックな気分になるという東山さんによると、台原亞洲偶劇博物館（台原アジア・パペット・シアター・ミュージアム）が特にお勧めとのこと。台湾と世界各国の人形劇用人形が一度に鑑賞できるほか、迪化街の不思議な魅力を体験できると語ります。

東山彰良さんは小説『流』で、魅力ある旧市街や新旧が交錯する独特の雰囲気など、子供時代を過ごした台北を描いています。東山さんは、散歩しながらグルメを味わい、懐かしさを抱きながら全く違う新鮮なものごとを探索するという、にぎやかな雰囲気の中での温故知新の旅が台北旅行の最大の醍醐味だと話します。中でも台北最古の間屋街「迪化街」は新旧混じる台北の温もりを感じられるとお薦めです。

迪化街一帯、すなわち「大稻埕」はかつて茶葉貿易で隆盛を極

めました。当時の豪商たちは多くがキリスト教を信仰し、事業が成功すると現地へ教会を建てました。例えば、「台湾茶葉の父」と呼ばれる李春生氏が出資して建設した大稻埕基督長老教会と李春生紀念館は、台北霞海城隍廟など東洋的な信仰の拠点とコントラストを成しています。

もちろん、迪化街の古色蒼然たる建築物もかなり見応えがあります。現在、商店の大半は漢方や各地の雑貨を扱う店です。地元の人々は迪化街での買い物が大好

大稻埕に来たら昔ながらのグルメは外せません。一見パツとしない屋台や店も、開業数十年の老舗だったりして、思わず行列に並



んでみたくになります。思いつくままに挙げると、民楽街の「民楽旗魚米粉湯」（カジキでダシをとった汁ビーフン）、サワラのフライと酸味のきいたとろみスープがおいしい「永楽台南土魷魚羹」、臭豆腐。迪化街付近では杏仁豆腐風ゼリー「顔記杏仁露」、ライスヌードル「永楽米苔目」、肉まん「妙口肉包」、練りもの「進成魚丸店」、つみれスープ「佳興福州魚丸」、スイーツ「夏樹甜品」などなど。また、慈聖宮前の路地も地元住民や常連客のみ知るぞグルメ天国です。チャーハン「阿蘭蛋炒飯」、「葉

家肉粥」、「山本米粉湯」、熟成スルメ「魷魚標」など。おやつを買いたければジャーキーなどの「維豊肉類食品」や、中華菓子「李亭香餅店」と、年中行事のたびに必ず長い行列ができる薄切りジャーキーの「江記華隆肉紙」などどれもお勧めです。

B級グルメだけではなく、東山さんにならって迪化街で「文学青年」の旅に繰り出すのもいいでしょう。レトロなスタイルの「URS329 稻舍」、「湛堂文創」、「民芸埕」、「衆芸埕」、「小芸埕」

1. 迪化街一帯はかつて茶葉貿易で隆盛を極めました。(写真/施純泰)
2. 大稻埕基督長老教会は台北の歴史とともに生きてきた建築物の一つです。(写真/施純泰)
3. 大稻埕周辺の昔ながらのグルメは観光客を魅了してやみません。(写真/施純泰)

などでは味覚や芸術・文学の饗宴を十分に楽しみ、台北旧市街地ならではの優雅なひと時を堪能できます。①



姉妹都市・友好都市に台北の魅力を発信 台北都市外交 それぞれの輝き

文・写真 台北市秘書処国際事務組

台北市の柯文哲市長は市長に就任して間もなくの2015年初め、米国や日本の友好都市や姉妹都市を積極的に訪れ、大きな反響を呼びました。今年下半期には相次いで各都市が台北を訪問し、台北市は姉妹都市との関係をより強固にしたのみならず、台北のさまざまな姿、そして豊かな文化を伝えました。これにより、台湾と台北の素晴らしさを理解しようと、より多くの都市から人々が訪れることが期待されます。今後より前向きにこの都市をアピールし、台北の輝きを世界に発信していくことでしょう。

ウェリントンの台北デー ニュージーランドで台北を

ニュージーランドの首都、ウェリントンで行われた「台北デー」という一連のイベントは、セリア・ウェイド・ブラウン市長が2015年2月に台北で開催された「台北国際書展（台北インターナショナル・ブック・エキシビション）」を訪れ、台北の柯文哲市長とパートナー都市交流協力覚書を交わしたことがきっかけで始まった友好交流イベントです。

「台北デー」では台湾映画の上映会、台北写真展、台北美食フェ

スティバルといった3大プログラムが行われました。映画では台湾初の海をテーマとしたドキュメンタリー映画『夢想海洋』を上映。これは国立台湾海洋大学の蘇達貞教授が16人の若者を率いて自作のカヌーで日本の与那国島に向かった物語を描いていて、海を愛するニュージーランドの人々の共感を呼びました。ブラウン市長とニュージーランド・フィルム・コミッション（NZFC）、ウェリントンの市民、学生、現地の台湾系の人々が駆けつけ、会場となったウェリントン市立美術館は満席になりました。台北写真展は市立図

書館ロビーで行われ、台北の文化や特徴を表現、または台北ならではのスポットを撮影した50点の写真が展示され、ウェリントンの人々に写真を通じて台北に触れてもらうことができました。

メインイベントは台北美食フェスティバル。ウェリントン市は若者による獅子舞チームで開幕を盛り上げ、台北市側は高級ホテル、ウェスティン台北の料理長がボランティアで駆けつけ、ニュージーランドの地元の食材で、世界的に有名な台湾グルメの牛肉麺や焼きビーフン、チャーハン、担仔麵（タンツォーメン）などを提供、会場を訪れた人々に本場の台北の味を届け、ニュージーランドの人々を虜にしただけでなく、長年海外で暮らす台湾系の人々の心を癒しました。

友好結ぶ都市交流

米国アリゾナ州のフェニックスは、1979年に台北市と姉妹都市となりました。今年3月の柯文哲市長の訪問時には、グレッグ・スタントン市長が自ら出迎え、大いに意見を交わしました。10月にはスタントン市長が台北市の招きに応じて訪台、台北市と友好都市関係をめぐる協議をあらためて交わし、両市の関係と友好が変わらないことを確認しました。



フェニックスは乾燥した砂漠地帯にあり、スタントン市長はこのほど台湾の雨量を目の当たりにしたことで非常に感銘を受けたそうです。天候には恵まれませんでした。スタントン市長の素晴らしい心情にはまったく影響しませんでした。

さらに、2016年は日本の横浜市と台北市がパートナー都市提携を結んで満10年を迎え、横浜の林文子市長がこれを祝うため台湾を訪れ、両市の友好がさらに深まりました。10月21日には両市の市長立ち合いのもと、野生動物及び生物多様性の保全を進めることを目的とした協力関係を構築するための覚書を交わし、種の保存や生息域外保全のための動物交換、動物の医療、教育などの分野で交流と協力を推進していくことになりました。

特筆すべきは、姉妹都市との外交や相互訪問、他都市との協力や

1. 2016年は台北市と日本の横浜市がパートナー都市提携を結んで満10周年、これを祝うため横浜の林文子市長が自ら訪問団を率いて台湾を訪れました。(写真/台北市秘書処国際事務組)
2. ニュージーランドの首都、ウェリントンで行われた「台北デー」では、台湾映画上映会や、台北写真展、台北美食フェスティバルなどが開かれました。(写真/台北市秘書処国際事務組)

交流を通じた具体的な現状と成果について、11月5日と6日に行われた外交部（外務省）とアジア・オセアニアの各都市が台湾鉄道台北駅で行った「2016アジア太平洋文化デー」で、台北市も今年初めて合同出展に参加したことです。またこういった展示イベントを通じ、台北市は来年の重大イベントである2017台北ユニバーシアードについて、人々の参与と協力を呼びかけ、ともに都市外交を進めることで台北を世界に発信するだけでなく、台湾の素晴らしさを伝えようと試みています。①

渡り鳥の ようなドイツの旅人 自転車で台湾の 自然に遊ぶ

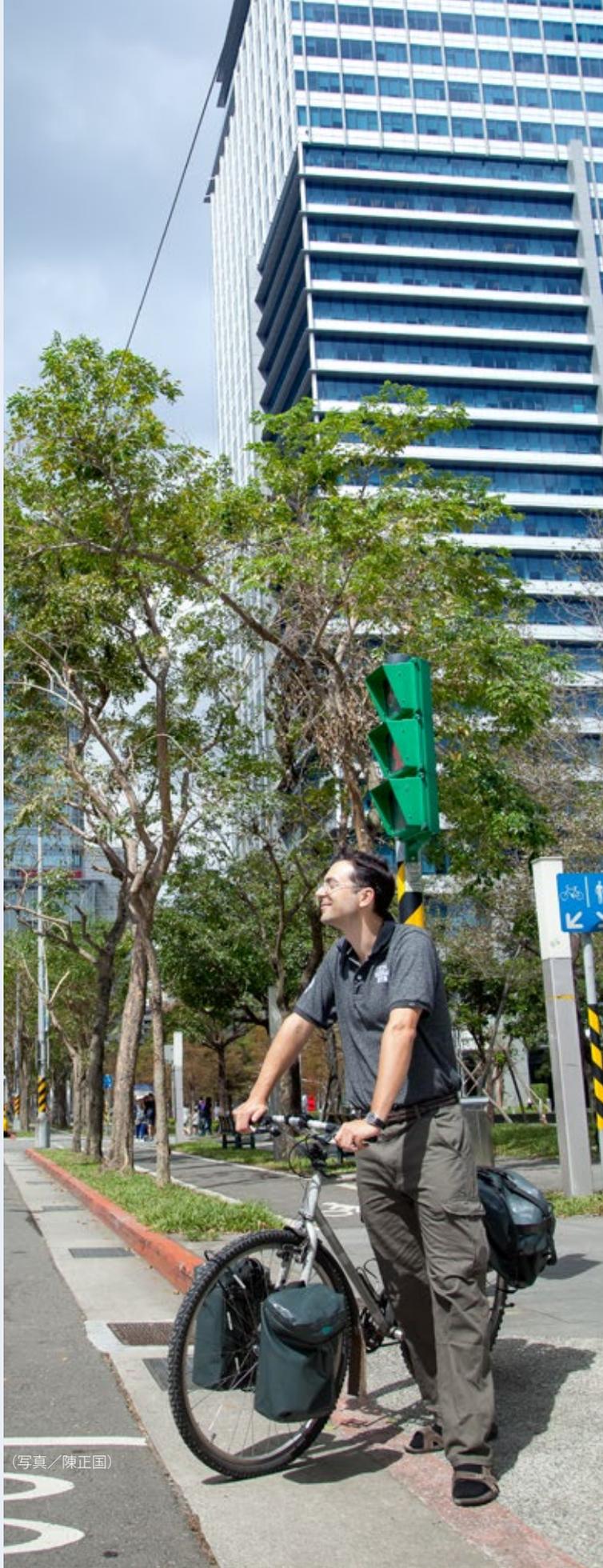
文 — 蔡嘉璋

写真 — 陳正国

「グランド・ツアー」—— 18世紀イギリス貴族の子息がヨーロッパ大陸で長い期間を過ごし見聞を広めることに由来する旅の形——は、旅行の真髄だと見なされてきました。1人で自然の中を歩き回って太陽の日差しと風景が与えてくれる温かさを感じ、寂しさと孤独がもたらす意義を学びます。旅というものは単に食べたり飲んだりして楽しく過ごすだけのものではなく、環境を変えて静かな心を追及するものなのです。

自転車で 台湾の景色に親しむ

ドイツからやってきたマルクスさんは2009年に初めて台湾を訪れ、美しい風景、素晴らしい人々と文化の虜となりました。彼にとって台湾は、何か見えない糸によって導かれたものなのかもしれません。マルクスさんは毎年、一緒に大自然をかけ巡っている自転車に乗り、少しの荷物を携えて台湾を旅します。「台湾には9回来ました」マルクスさんの中国語は流暢ではありませんが、簡単なボディランゲージと真心でこの島のどの町へ行っても親切な台湾人たちといつでも友達になれます。「台湾人は本当に愛すべき、温かいな人たちですよ」これはマルクスさんが台湾を愛する一番の理由です。



(写真/陳正国)

「台湾は大きくありませんが、とても美しい場所がたくさんあります」自分の旅を振り返りつつ、マルクスさんは知っている中国語を頑張って使いながら台湾でのさまざまな経験を話してくれます。「実はいつもどこを走るか決めていないんです。台湾で見つけた資料や友達に聞いた最新の情報などから、だいたい行き先を決めてそのまま出発します」今年の旅は台北を出発して北部横貫公路（台湾北部を東西に横断する自動車道）を通り、山間部の巴陵、新光、司馬庫斯、鹿場、南庄などの集落を見て回りました。台湾北部につらなる名山を訪れ、大自然とそこに暮らす生き物たちを五感で感じたそうです。

マルクスさんによれば、自転車は最も快適な旅行の手段だと言います。上り坂を苦勞してのぼる時には山の起伏を感じ、下り坂を楽々下る時には全身の毛穴から山林の息吹と生命を感じます。そして思いのままに停まったり走ったりしながら、身軽にのんびりと台湾を旅することができます。「自転車と体は泥だらけになりますが、この生きた体験が台湾で出会ったひとつひとつの実感ある思い出になります。」

舌で知る地元の暮らし

マルクスさんにとって、温かく



マルクスさんは9年をかけ、台湾全土の大都市や山間部を訪ねて回り、軽やかでゆったりしたリズムで台湾の素晴らしさを体験してきました。

親切的な台湾らしさはさらに旅を続けたいと思わせる大切な支えです。「台湾を旅行するのはとても便利です」マルクスさんいわく、台湾旅行の長所は毎日のスケジュールをとくに決める必要がなく、どこへ行っても宿とレストランを見つげられるため、自由にペースを決められるところだそうです。治安も良いのでスリや詐欺に遭う心配もなく、まるで家にいるような温もりと安心を感じると言います。

多様な食文化も台湾の魅力のひとつです。記憶力のいいマルクスさんは、パイナップルケーキ、タピオカミルクティー、龍鬚菜などたくさんのお食べ物の名前を挙げてくれました。デザート、ドリンク、B級グルメまでマルクスさんは旅をしながら豊富な味の思い出を積み重ねています。「台湾の野菜は新鮮で美味しいです」台湾の新鮮な野菜は口に入れるごとにシャキシャキとし

て甘く、高山や自然な畑の味わいを感じることができるのだそうです。広大な国土を持つ欧州からすると、野菜の運送に時間があまりかからないことは大きな強みです。台湾ではどこにいてもさまざまな高度で育てられた味をすぐに楽しむことができます。「台湾人であることは本当に幸せですね！」マルクスさんはこう賞賛します。

「よりたくさんの人々が台湾の美しさを知ってくれることを願っています」マルクスさんは来年また台湾を訪れるための休暇もすでに決めているそうです。彼は自分の経験を活かし、台湾は旅行する価値のある場所で、自由な心だけを持って訪れれば台湾の山林の美しさが脳の深いところに自然に留まり、いつでも旅への渴望を呼び覚ますのだということを他の外国人にも伝えたいと思っています。📌

「台湾は太平洋に浮かぶ真珠」

— 趙百相さん

文 — 顔艾珏

写真 — 楊佳穎、駐台北韓国代表部

信義区の台北世界貿易センター 22 階に入居する韓国の対台湾窓口機関「駐台北韓国代表部」に入ると、趙百相（チョ・ベクサン）同部前代表のオフィスからは、海外からの観光客にとって人気スポットとなっている台北 101 ビルの姿を目にすることができます。それはまるで、任期を終えた趙前代表を台北市を代表して見送っているようにも見えます。



台湾各地の観光スポットを熟知

流暢に中国語を話す趙前代表は、2014年4月の就任から10月末までの任期終了まで台湾と韓国の友好関係維持、発展に努めたほか、公務のみならず余暇を利用して台湾各地を訪問しました。

同前代表は、旅をするたびに自然環境、文化、グルメなどいつも台湾の魅力や長所を発見できた

と語ります。個人的に一番好きな観光スポットは桃園市復興区の東眼山国家森林遊楽区だそうです。台北市では大安森林公園を推薦しています。「暇な時はいつも MRT に乗ってここへやって来て1、2時間散歩しました。公園ではたくさんの方が瞑想したり、太極拳やジョギングを楽しんだり、親子が共に過ごす姿を見かけ、台北の人々がのんびりとした生活を味わっていることが分かります。簡単に言えばここはニューヨークのセントラルパークのような存在なのです」と分析し、さらに最寄りの MRT 駅、大安森林公園駅についても「敷地内で約10分間の水を使ったショーや滝をイメージした庭園を楽しむことができ、外国人観光客にもっと知ってもらわなければならない」とその魅力を語っています。

外交官として世界各地へ台湾に強く感銘

趙前代表はソウル大学・政治外交学部を卒業した後、同大の大学院で外交を、米ペンシルベニア大学の大学院で国際政治について学びました。外交官としての34年にわたるキャリアの中で米国、ネパール、日本、ベトナム、中国などの在外公館に勤務し、2012年に中国遼寧省

の瀋陽総領事を務めていた際には、同領事館が「最優秀在外領事館」に選ばれています。中国語だけでなく、英語、日本語、ドイツ語にも堪能で、韓国において唯一、国防部国際政策官から軍事政策および各国との安全保障業務に携わる任務を受ける大使となっています。

台湾と韓国の外交関係は1992年に絶たれましたが、双方の努力により、近年では相互に第5の貿易パートナーに発展しています。2004年9月に定期航空便の運航が再開されて以降、旅行者の往来も徐々に増え、12年にノービザでの滞在期間が90日に延長されたこと、13年に韓国の人気旅行バラエティ番組「花よりおじいさん」で台湾が取り上げられたことなどから、14年には台湾を訪れる韓国人旅行者は初めて延べ100万人を突破。現在、台湾～韓国間には週110便の直航便が就航するなど双方の交流はますます緊密になり、旅行者数は今年、170万人に達する見通しです。

趙前代表は外国人の立場から新鮮な眼差しで台湾を見、常に驚きを感じていました。多くの時間を過ごした台北市については「清潔で安全、市民は情に厚く親切で、

1. 趙百相さんは、地理、自然、人、文化、風俗、歴史などなど旅する度に台湾のさらなる魅力や強みを発見するといえます。(写真/楊佳穎)



様々に変化する顔を持ったソウルとワシントン、東京が融合したような美しさを持つ都市」との印象を語っています。信義区に居を構えた彼は、台北 101 ビルに灯るライトアップが虹をテーマとして毎晩その色を変える光景が強く印象に残っていると話します。

また趙前代表は台北市文化局に対し、イベント会場の提供に関する協力を謝意を述べました。既に3年連続で開催されている台韓友好交流イベントは、今年も文化局の協力の下、10月1日に台北市政府庁舎・東門広場で開かれました。台北 101 ビルが見下ろすこの広場で「台北打撃楽団（タイペイ・パーカッション）」や韓国の歌

手、金承熙さんや林珍範さんがパフォーマンスを披露。さらに会場では韓国料理が提供されたり、韓国文化体験ブースが設置されたりと大盛況となりました。

台湾とお別れする 趙前代表の旅行指南

初めて台湾を訪れる観光客に対し、趙前代表はまず、陽明山、野柳、九份、金瓜石、平溪、淡水、中正紀念堂、国父紀念館、台北 101、龍山寺、西門町といった北部の観光スポットを巡るよう勧めます。中には台北エリアだけを旅行するために3度も来台した人もいるそうで、こういった旅行者は北投、陽明山、烏来、金山の温泉巡り、親子連れならこれに台

北市立動物園でのパンダ鑑賞を加えるなどテーマを設定した旅を楽しんでいるようです。

また台湾旅行のリピーターに対しては、南投県の日月潭、台南市の安平古堡、宜蘭・花蓮・台東旅行を推奨します。さらに趙前代表は「台湾には隠れた名所が数え切れないほど存在し、何度でも訪れる価値がある」と強調。「『太平洋の真珠』とはハワイではなく、台湾のことだ」との言葉でこの島への愛情を表現しています。その上で観光は今後、台湾がより発展に努めるべき分野であり、プロモーション面ではより細やかな差別化を図って魅力を広く伝えるべきだと提言しています。

-
2. 10月初旬に終わったばかりの韓国台北友好ウィークでは、韓国を代表するミュージカル「BIBAP」が招かれました。(写真／駐台北韓国代表部)
 3. 2016年の韓国—台北文化交流饗宴は、台北市政府庁舎・東門広場で行われました。(写真／駐台北韓国代表部)
 4. 駐台韓国代表としてあいさつする趙百相さん。(写真／駐台北韓国代表部)
-

ここ10年来、韓国のドラマやアイドル、PSYを代表とする韓国ポップス、サムスン電子の携帯電話、日々進化を遂げる化粧品などがアジアを含めた全世界を席巻しています。韓国人が持つ民族的特性とIT技術力を融合させ、世界に「韓流」ブームを巻き起こしたのです。台湾のドラマやバラエティ番組について趙前代表は、「台湾のタレントは容姿に優れ、創造力も高く、魅力がある。また李安（アン・リー）や侯孝賢（ホウ・シャオシェン）といった世界的な映画監督も輩出しており、機会があれば台韓共同制作の作品が生まれることを期待する」と語っています。

最後に趙前代表は「難兄難弟（似通った苦境にある者同士）」という言葉で台湾と韓国の関係を形容しました。具体的には両国とも国家が「青年期」を迎え、経済が輸出主導型で高学歴者の失業や高齢化、工業を原因とする環境汚染が問題となっていること、さらに最も特徴的な点として、いずれも平和的な政権交代が実現した上に現在は女性が国家主席を務めていることを挙げ、「世界で最も似た国」である台湾と韓国は直面する問題も共通しており、将来、手を取り合って解決策を模索することが可能だと語りました。📍



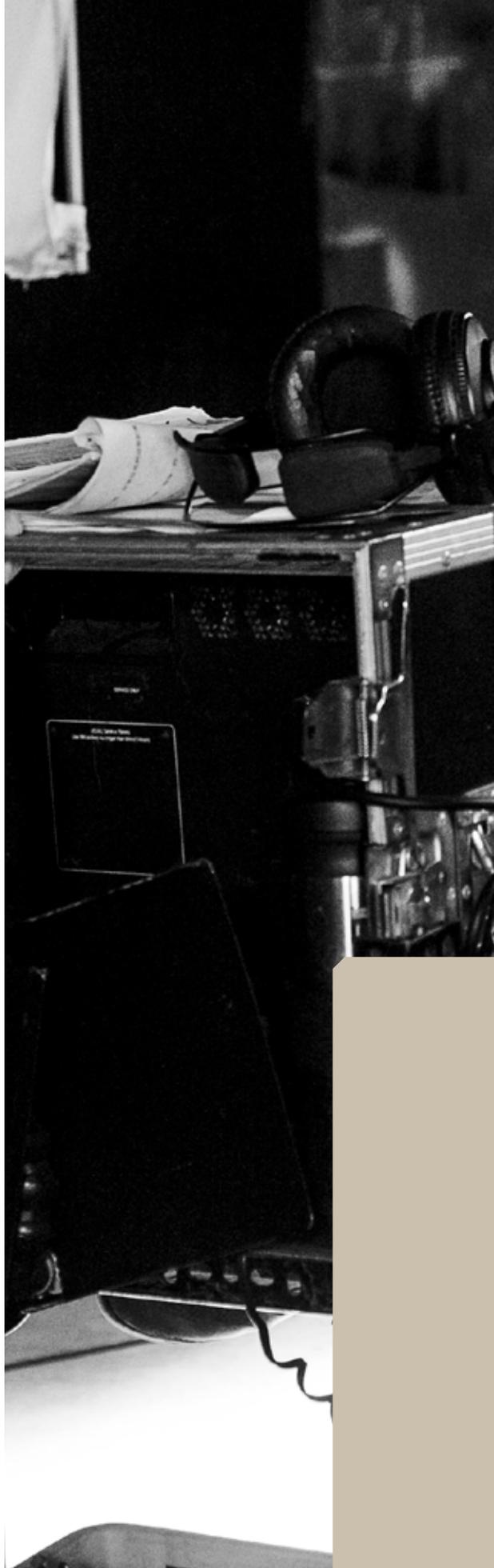
20代、30代、40代 北村豊晴さんの 映像人生

文 — 江欣盈

写真 — 北村豊晴



「中年の危機（ミッドライフ・クライシス）を迎えた父親、“空の巣症候群”の母親、そして仕事、恋愛、人間関係と青春の問題に直面する3人の子ども」これは北村豊晴監督の最新作「植劇場—恋愛砂塵暴」のメインテーマです。北村監督は一貫してユーモアあるオーバーな視覚表現で、幻想とリアルの間のシチュエーションを軽妙に描き出します。従来の純愛物語のスタイルを打ち破り、現実をありのままに描く社会に寄り添った脚本には緊張感があり、観客は大笑いしながらも登場人物の姿に慣れ親しんだ日常を見出すかのようです。北村監督が撮るそれぞれのシーンに、私たちは台北のさまざまな暮らしの姿を垣間見るだけでなく、この大都市に生きる自分を見ているのです。





(写真/北村豊晴)

片道切符で未知の世界へ 飛び込んだ青春

「役者はある種の武器を持つべき。言語はまさに武器のひとつです」1997年、小劇場で働いていた北村監督は大阪を離れて、中国の北京中央戯劇学院に留学します。中国語を勉強しながら演技を学び、流暢な中国語を話す日本人俳優になることが目標でした。しかし中国での生活が4か月経った頃、北京での学費と生活費が非

常に高かったことから夢への道を一度離れて働くことにしました。彼は台湾からの留学生のアドバイスを聞き、台湾へ行ってアルバイトをして学費を捻出することにしました。貯金ができたら北京へ戻るつもりでしたが、文化、生活、金銭感覚など故郷である日本と似ているこの国にだんだんと魅せられた北村監督は、それから20年ずっと台湾に留まっています。

「そこで初めて台湾に触れました。でも振り返ってみると身の周りにはいつも台湾人がいましたね」北村監督は以前アルバイトで知り合った台湾人が開いた東区(市東部の繁華街)のヘアサロン「中村龍馬髪芸」で、台北で最初の仕事を始めました。映像産業へ本格的に足を踏み入れるまで、北村監督の生活はヘアサロン、日本料理店、カレー店からイタリア料理店まで、そして政治大学の語学

学校、台湾芸術大学、それから台北芸術大学へと、出会いによって変わり続けました。北村監督の青春映画は木柵、永康街、東区、関渡で順番に上映され、理由なくエンストし続けるベスパは無力感に満ちた忘れられないシーンとなって心に残っています。

台湾へ来て1年目、日本料理店でアルバイトをしていた時、北村監督は台湾を去ろうと思ったことがあったそうです。「でもある台湾人の同僚が『きみは才能があるからもう1年頑張れ、そうしたら何をやっても必ず成功するよ』

と真剣に言ってくれたんです」単調な日々の中でこのようなまっすぐな賞賛が決定的な力になったのかもしれませんが。北村監督は台湾に留まろうと決心しました。当時の目標は「台湾で中国語の映画を撮る最初の日本人になること」でした。十数年が経ち、北村監督は長編映画2作、ドラマ3作を監督し、多くの作品に製作や演出としてかかわっています。彼にとって台湾は夢の生まれる場所になっています。

「良い脚本と、必ず90点以上の内容のフィルムに仕上げれば、撮

影後の編集には良い素材が残ります。加えてぴったりの音楽があれば、必ず良い作品に仕上がります」言い換えれば、作品が観客に与える愛おしさ、感動、笑いは、チーム全体が作品に対して一貫した厳しい姿勢で取り組むことによって生まれます。「恋愛砂塵暴」の撮影は求めても出会うことのできない巡り合わせで実現しました。「監督がすぐに作品にしようとする脚本は多くありません」北村監督はこう言います。脚本家の温郁芳さん、張可欣さんによるきめ細かく練られた脚本と、北村監督の荒唐無稽で風



1. 普段は穏やかな監督も仕事となると集中した厳しい表情になります。(写真/北村豊晴)

変りな表現方法で、脚本の中の人物がレンズを通じて観客の目の前に踊りだし、物語は立体的に生まれ変わって共鳴を生み出します。「脚本を見た時、自分のことを書いているのではないかと思いましたよ」北村監督は笑いながらこう言います。時に荒唐無稽さが人生の真実であることもあります。

「北村」から「北村家」に

2010年、北村監督は両親を台湾へ呼び寄せて大安区に日本料理店「北村家」をオープンします。40年の経験を持つ料理人であるお父さんは北村家の味を台

北で再現し、一家三代がこの地に根を下ろしました。北村監督は毎週、両親のために教師を呼んで中国語のレッスンをしてもらっています。まだ勉強中なので、言葉が通じないことが多くの笑い話になっているそうです。「母がタクシーで『通化街（トンホワジエ）』へ行こうとしたのですが、運転手さんは『通河街（トンホージエ）』と聞き違えて士林まで行ってしまいました。父は自転車本体より高いイタリア製のヘルメットを買って母に怒られていました」北村監督は泣き笑いしながらこう話してくれました。「台北の

MRTやバスは本当に便利です。両親も自分たちで動くのが面白いようです」MRTに乗ってマンゴーかき氷や小籠包などグルメを楽しむのが彼らの一番のお気に入りです。北投公園へ行って「ポケモンGO」で遊んだこともあるそうです。

学生時代、北村監督は万華一帯を撮影するのが好きでした。この町の古く伝統ある姿に魅了されていたのです。現在1男1女を持つ彼は、休みの日になると2人の子どもの希望を両方叶えるために知恵を絞り、東区、北投、陽明山、大稻埕、通化街など台北のさまざまなエリアへ足を運んでいます。俳優、監督、居酒屋のオーナー、そして2人の子どもの持つ父という顔に、来年は作家という顔が加わります。台湾で過ごした20年で起こったあれこれを中国語で書くのだそうです。最初の10年で夢を叶え、次の10年で北村家は1人から6人になりました。では次の10年は？「ラブコメディをもっと撮りたいですね」映画の夢はこれからも必ず取り組み続けるという北村さんの作品を楽しみに待つことにしましょう。①



2. 北村監督と両親。門の右側に掲げられた「北村家」は日本の表札と同じでうちへ帰ってきたような味わいがあります。(写真/北村豊晴)

北村さんのとっておきグルメ



北村家くるみ小料理屋

📍 楽利路 17 号

☎ 0929-200-518

仕事が終わったら「北村家」へ！

北村監督が両親と切り盛りする居酒屋は日本の家庭料理と楽しく温かな雰囲気、仕事の後に友達と会って食事を楽しむのにぴったりです。



史大華精緻麵食

📍 安和路 2 段 74 巷 4 号

☎ (02)2706-4436

看板料理の牛肉麵はシコシコの鶏蛋細麵（たまごを練りこんだ麵）と台湾産牛肉を使っており、濃厚ながらさっぱりとした味わいです。



南川麵館

📍 和平東路 3 段 91 号

☎ (02)2732-5580

「いつも汁そばと、汁なしの麵を1つずつ頼みます」思い出だけで北村監督の食欲をそそる素朴な味わい。多彩なおかずも人気の商品です。



巧之味手工水餃

📍 濟南路 2 段 6 号

☎ (02)2321-4693

「貝柱入りを 10 個、その他の 2 種類を 5 個ずつ頼みます」北村監督が大好きな水餃子の専門店です。オリジナル、ニラ、貝柱の 3 つの味があり、シンプルですが忘れられない味です。



(写真/北村豊晴)

路地裏の名人を訪ねて

物語が呼び覚ます町の記憶

文 — 葉亜薇

写真 — 林衍億



万華は台北で最も早くから栄えた地域で、茶葉店、中華菓子店、漢方薬局、衣類や時計の卸売り、昔ながらの鍛冶屋などが集まっています。こういった人々の暮らしと密接に関係する商売から、かつての生活の痕跡を見つけることは難しくありません。何代にもわたって受け継がれてきた伝統の技、そして職人たちは、今ではこの地ならではの風景となっています。





阿宝師咖哩餃 老舗の新しい味わい

「阿宝師咖哩餃」は、二代目の唐楷さんがお父さんから受け継いだ店です。父の陳錦宝さんは戦後国民政府と共に台湾に渡り、万華で「鳳鳴香食品行」を開きました。陳さんは中国・福州にあった老舗の名前をつけたこの店で、継光餅（小麦粉で作った丸いパン）や麻花（かりんとうに似た揚げ菓子）、潤餅（小麦粉で作った薄い皮で野菜や肉などを包んだもの）などに加え、正月や中秋節には時節柄のお菓子を販売しました。1950年に唐さんが店を継いだ後、新しく作った商品が昔ながらの製法で作った餃子型のパイでカレーを包んだ「阿宝師咖哩餃」です。これが評判となり、今では「阿宝師咖哩餃」が店名となっています。

父親は婿養子だったため姓が違います。店名にもある「宝」の字によって子どもたち、孫たちが祖先への感謝を忘れることはないでしょう。

福州風のお菓子を作る時、最も重要なのは老麵（小麦粉を天然酵母で発酵させた中華式の生地）の粘り具合で、その粘り具合の良し悪しは手でこねる時に決まるそうです。「生地を叩けば響きで粘りが十分かどうか分かります」と唐さんは言います。かつてはすべて職人ひとりひとりの経験に頼っていた技ですが、現在では機械で生地のPH値を測ることができますし、試し焼きした生地の色で判断することもできます。

「咖哩餃」の独特な形は、必ず

手作業で注意深く作らなければなりません。油酥（さくさくしたパイ皮）と普通の皮の比率は、食べた時に何層も重なる滑らかさを感じさせる鍵となります。開業から70年近くが経ちますが、唐さんは今も毎日、前進したいと考え、地元の産業と万華の未来がより深くつながることを願っています。

太和餅舗 懐かしい思い出味

1946年創業の「太和餅舗」は最初、生活雑貨のお店でした。三代目の陳俊傑さんによれば、台中の製糖工場「大和糖廠」で働いていたお爺さんが日本の台湾統治が終わったとき、台北へ戻って兄弟と店を開いたのだそうです。「大和よりもひとつ多く」ということ

で店名を「太和」とし、蜜餞（果物の砂糖漬け）、雑貨、名産品、漢餅（中華式のお菓子）などを販売しました。1960年代になって米国産小麦粉が台湾に輸入されるようになると、お菓子やパン作りの教室が開かれるようになり、陳さんの父と叔父はその技術を学んでパンやケーキを作り始めました。「当時は包子（具の入った中華まんじゅう）や饅頭（具のない中華まんじゅう）ばかりだったので、油や砂糖をたっぷり使ったふわふわで柔らかいパンは、すぐ大人気になりました」と陳さんは話します。それから20年以上、陳さんと家族、仲間によって「太和餅舗」は伝統的な漢餅を中心に扱う、昔ながらの懐かしい味を守る店となりました。

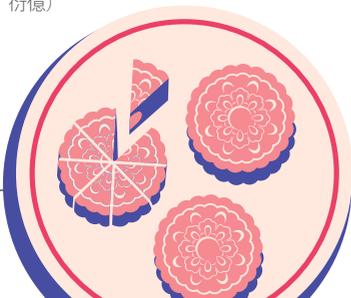
漢餅の下ごしらえは手間がか

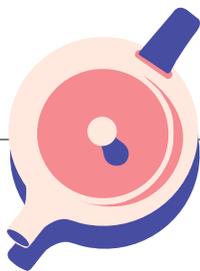
かるもので、材料の準備もかなり気をを使うと陳さんは言います。「冬瓜肉餅」の材料は冬瓜、ナッツ、ラード、粉ミルクですが、冬瓜とナッツはまず下処理で柔らかくしておなければお菓子作りに使えません。「冬瓜と肉の比率、火加減、どれも風味に影響します。私は記憶の中にある小さい時に食べた味を作り出したいのです」そう語る陳さんには、しっかりと心に留めているお父さんの言葉があります。「自分が食べられるものを作ってこそ、お客様に売ることができる。菓子作りは幸せな気持ちをお客様に伝えることだ」。誠心誠意の精神を守りつつ、同時に新しい製品も生み出している陳さん。この数年は「烤乳酪（ベイクドチーズケーキ）」が若者に人気で、老舗が新しい活気で満ちています。

三秀打鉄店 手作り農具の鍛冶屋から

万華区の西昌街はかつて鍛冶屋通りとして知られていました。現在では鍛冶業は衰退し、「三秀打鉄店」はこの地区に唯一残る鍛冶屋となりました。二代目の張栄秀さんによれば、1925年にお父さんが友人と店を始めた後、独立して開いたのが「三秀」だということです。「全盛期には西昌街の通りの2号から26号まで全部鍛冶屋でした。うちの家族だけでも3つの店をやっていました。『金勝』が豚処理用の刃物、『元益』が厨房用刃物、『三秀』が農業用具でした。技の熟練度や、作業の速さで、自然にどの道具の専門店なのか決まりました」品揃えが良く、さまざまな作業に対応する道具を扱う「三秀」には、遠くは花蓮や金山地区からもお客さんが

1. さくさくしたパイ生地が阿宝師咖哩餃の美味しさの鍵です。(写真/林衍億)
2. 昔ながらの手法で手作りされる漢餅。3代にわたって受け継がれたこだわりです。(写真/林衍億)
3. 鍛冶職人の張栄秀さん。鍛冶業に昔の賑わいは戻らないけれど、往年の精神がすたれることはないと言います。(写真/林衍億)





4. 茶は商品であるだけでなく長い歴史を持つ文化。茶を通じて人々と知り合うことはこの上なく楽しいものです。(写真/林衍億)
5. 龍山仏具は100年の歴史を持つ老舗。その仏像彫刻の素晴らしさは遠方にも知れ渡っています。(写真/林衍億)



足を運んだそうで、その影響力の大きさが伺えます。

張さんの技術は福建省惠安から伝わったものです。「鉄を打つ前、まず鉄くずを叩いて広げます。そして1,300度の高温で鉄を溶かして打つ作業を2回繰り返してから合体させます。鉄を打つ時に熱で溶けた鉄が飛び散るので、両手はやけどで傷だらけになります。だから鍛冶師の手はでこぼこだらけなんですよ」。現代では昔ながらの農具は機械に取って代わり、90年以上の歴史を持つこの老舗も今は建築器具の修理を手掛けるようになりました。70歳の張さんはまだ現役で、鍛冶業のために努力を続けています。

福大同茶莊 100年の焙煎の技

1845年創業の「福大同茶莊」はこの100年間、台湾の茶葉文化の盛衰を見つめてきました。同店の責任者である蔡玄甫さんによれば、中国大陆から艋舺（万華の古い呼び名）へ来た移民たちは閩北（福建省北部）の人々でした。当初、台湾では茶葉を栽培していなかったため、茶葉はアモイから帆船で輸送していました。しかし輸送には1カ月半かかるため、茶葉は湿気を帯びてしまいます。そのため到着後、まず艋舺の茶葉店で茶柱を取り除き、焙煎してから販売されました。当時、二号水門で貨物上がるのを待つ荷運びの人夫たちは、いつもお茶屋さんにとむろし、

大きな急須で入れたお茶を飲みながらおしゃべりをしていたそうです。これが庶民生活の中の茶の文化として定着しました。福建省安溪からのお茶のうち、武夷水仙茶や安溪鉄観音、老木から採れたお茶などは裕福な名士に販売されました。また、説書茶館（語り部のいる茶館）も茶文化が育まれた場所のひとつでした。

当初、お茶は荷運びの人夫によって町中で販売されていました。店舗はなく、茶葉店の仕事は製茶でした。現在の衡陽路、博愛路、公園路付近の百貨店、布屋、貴金属店などはどこもかつて茶葉販売で賑わう場所だったそうです。その後、台湾でもお茶が



りました。このような工程を経て、しっかりとした美しい仏像が作られます。大型の像は現在でもこの方法で作られますが、表面にはガラス繊維が使われています。また、中型・小型の仏像は質感が重視されるようになるのに伴い、木彫で作られるようになりました。

「龍山仏具」には何でもあります。中華風の仏像だけでなく、聖母マリア像、キリスト像まで作ることができるそうです。「仏具産業がなくなることはありません。神様を拜む人がいなくなることはありませんからね。世界中で仏教が盛んになってきていて、1つの道場に100万人もの信者がいるんです」。李さんは自信たっぷりでご話してくれました。

町それぞれがその町ならではの味わいを模索しています。それはある種の目印であり、私たちが何者なのかを説明し、同時にその町の魅力の表すものでもあります。職人たちのまっすぐなまなざしの中に、万華にしかない価値が感じられます。伝統が受け継がれる中に昔のぬくもりが留められ、それが新しい時代の考えにちょうどよく溶け込み、新しい万華を生み出しています。①

栽培されるようになり、茶葉店では花茶（花で香りをつけた茶）を製造するようになりました。蔡さんによれば、良い花茶は、茶葉の中に花の姿はないながら嗅げば爽やかな淡い花の香りがすること。南港のキンモクセイ、蘆洲のジャスミンなどを使い、茶葉と花びらとを紙を挟んで交互に重ね、4日間（四韻四提）、さらには8日間（八韻八提）置くことで、高級な花茶が完成します。

龍山仏具 今も盛んな彫刻芸術

1895年創業の「龍山仏具」は100年の歴史を持つ老舗です。この店の仏像はどれも評判が高く、中南部、澎湖、花蓮の仏具店やお寺までもがここを訪れます。

6代目の李子勇さんは78歳。20歳までに艋舺の龍山寺に納める韋駄天像、伽藍神像を手掛けました。仏像彫刻の話になると、李さんは真剣にこう語ります。「最も難しいのは顔の表情です。いかに荘厳なお姿を作りだすか、10年以上学んでも独り立ちできない人もいます。」

仏像の製作には手間ひまがかかると李さんは言います。仏像の型作りには最初ははりぼてが、その後は泥が使われ、最終的には泥で神像の形を型取りする方法になりました。泥で作ったひな型に外側に紙を貼りつけて外観を作り、内側の泥が乾いたらそれを抜き出して色つけと「安金（金箔を貼る作業）」をする、という作り方にな



伝統の技が生む紙と筆

手書きでしたための記憶

文 — 樊語婕

写真 — 吳金石、施純泰

スマートフォンやパソコンを使う毎日で、「手書き」の温もりと感動を忘れてはいませんか？手づくりの紙と筆に特有の質感に魅せられ、その伝統的な製法を学ぶ人たちがいます。さらに彼らは、昔ながらの工芸品に現代的なアイデアを取り入れ、新たな生命を吹き込んでいます。

かけがえのない手すきの紙の温かさ

紙が人に感じさせる温かな美しさ。科学技術によって作られた製品がそれにとって代わることは永遠に叶いません。紙に恋した「二皿手作紙設計」の創業

者、李孟書さんは安定した教師の仕事を手すき紙の研究に打ち込むことを選びました。そして個性的なはがき、ペンダントトップ、ランプシェードなどの商品を生み出し、同社を台湾でも数少ない「紙」を用いた特色あるブランドに育て上げました。

中学校から大学院まで美術を学んだ李さんは、一貫してアートとデザインの分野で努力を続けてきました。彼女が初めて接した手すきの紙は、小学校の書道の授業で使った宣紙(書道用の上質紙)でした。しかし当時まだ子どもだった彼女は特に強い印象を受けること

はなかったそうです。その後大学院で論文を執筆する際、新しい文化の創造をテーマとして研究に取り組みたいと考えた彼女は、パイナップルの繊維を使った紙のギフトボックス「旺来(台湾語の「パイナップル」と同音、縁起の良い言葉とされる)」を制作しました。その過程でフィリピンにある台湾企業の紙工場を訪問し、紙作りには多くの手法があることを初めて知ったそうです。これが彼女の心に紙作りを職業とするという思いを芽生えさせました。

このような巡り合わせの後、李さんは独学で紙作りを学び始め



1. 商品の細かな部分に李孟書さんの職人としての思い入れが垣間見えます。(写真/施純泰)
2. 伝統的な手すき紙に新しいアイデアが加わり、独創的な商品が誕生しました。(写真/施純泰)

ました。まず資料を集めたり、製紙職人の作業を録画したりした後、さまざまな材料と製紙技術を自ら試しました。絶え間ない練習を経て、李さんは徐々に紙それぞれの特徴を把握し、自分が思うような効果を生み出すことができるよう

になりました。大学院修了後、高校の広告デザイン科で教師になりましたが、心の中には紙作りへの渴望が存在し続けました。そしてついに安定した教職を捨てることを決心し、2010年に宝蔵巖国際芸術村で「二皿手作紙設計」を立ち上げました。ただこれは李さんにとって、手すき紙を使った商品の設計に取り組むかたわら、経営やマネジメントについてもゆっくりと学んでいかなければならないという、理想と現実の綱引きの始まりでもあったのです。

デザインで手すき紙に新たな魂を

李さんは紙の持つ温かい質感が大好きだと言います。触覚と視覚を通じて、一枚一枚の紙どれからも異なる美しさを感じることができると、デザインと創意によって紙は豊かな表情を見せてくれるそうです。彼女は、紙は非常に穏や

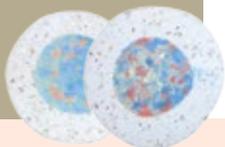
かな材料だと考えています。「例えばランプシェードや屏風に紙を使うと、光は優しく温かなものとなり、鋭さを消すことができます。」

伝統的な製紙職人とは異なり、李さんは自分のデザイン力を発揮して手すき紙に新しい生命を吹き込んでいます。彼女の作品は人々の手すき紙に対する認識を新たに、より日常的で実用的な存在に変えています。彼女の紙はノートやカードだけでなく、コースター、ランプシェード、屏風、パーテーション、ラッピング用品などに姿を変えて生活を彩ります。

李さんが創作に用いる素材の9割以上は生活の中で簡単に手に入るものです。段ボール紙、牛乳パック、使用済みの吸水紙など、捨てられた素材がパルプに姿を変えます。ビール製造で出る麦芽かすで作った紙で、酒メーカー向けに製

二皿手作紙設計

- 📍 汀洲路3段230巷59弄2号
(宝蔵巖国際芸術村)
- ☎ (02)2364-5313 内線314
- 🕒 金～日 12:00～22:00



麦芽かすコースターの作り方



1. 乾かした麦芽かすや古紙など材料をミキサーに入れ、水を加えて混ぜます。



2. その中のりをに入れて均一になるように混ぜ、手すき枠の中に流し入れて水を切り、目玉焼き用の丸い枠で形を作ります。



3. 吸水紙で余分な水分を取り除きます。
4. 最後にアイロンをかけて出来上がり。

品パッケージをデザインしたこともあるそうです。また地方の農協のために開発した商品では、地元で取れる環境に優しい素材を生かそうと、その土地で栽培されていたマコモダケの皮を使用しました。

「二皿手作紙設計」は週末に一般開放されている宝蔵巖国際芸術村のワークスペースのほか、誠品書店松菸店にも出店しています。ここでの手すき紙体験には親子連れ、国内外からの観光客、ハンドメイド好き、「文青（アート好きな若者）」など多様な人々が集まります。また李さんは障がい者施設など福祉施設へ赴き、スタッフに無料で授業を行っています。彼らが先生となって、障がいを抱える子どもたちが創造力を発揮すると同時に手先を訓練する機会を与えられればと彼女は願っています。

MIT (Made in Taiwan) の紙作り
にこだわる李さん。将来は台湾原

産のセンダングサのような材料をさらに多く見つけて、手すき紙により台湾らしい味わいを持たせたいと考えています。

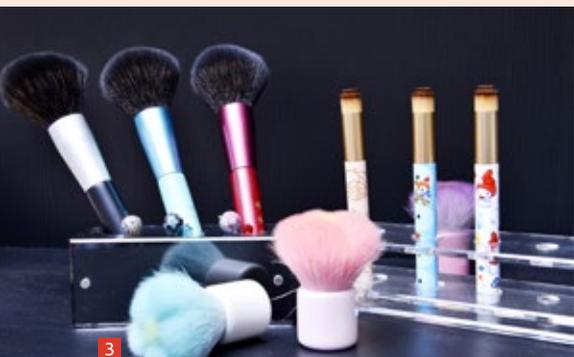
毛筆から化粧ブラシまで 老舗のこだわり

古い時代の雰囲気色が濃くが残る大稻埕地区には多くの老舗商店が並びます。その中のひとつ、手作り毛筆の代名詞的存在となっている「林三益」は細部にこだわる緻密な製造工程で知られます。店に入ると、毛筆、水滴（硯に使う水を入れる容器）、硯、印章、寿山石の彫刻などが陳列され、優雅で落ち着いたオリエンタルな雰囲気に満ちています。しかし別のコーナーにはアイシャドーブラシ、ファンデーションブラシ、角栓取りブラシなど化粧道具が並び、おしゃれなムードを醸し出しており、古くから伝わる文具と化粧道具が伝統と現代の共存共栄を象徴しているかのようです。

「林三益」の歴史は清朝末期にまでさかのぼります。当時、最もお金をかけずに修得することができる技術が毛筆作りでした。一代目の林万務さんはその技術を身に付けるため、故郷の中国・福州で師匠につき、地元の筆店「三益齋」で修業しました。独り立ちした後も師匠の下で仕事を続け、数年後にその店を譲り受けました。師匠の恩を忘れぬように店名を「林三益」とし、1946年に台北へ移り住んだ後は大稻埕で店を続け、「林三益」は台湾人なら誰もが知る、筆と墨の専門店となったのです。

48の工程 筆先に宿る職人精神

良い筆とはどんなものでしょうか。「林三益」の四代目、林昌隆さんは、良い筆とは原毛の配合が正確で、筆先のまとまりがスムーズで弾力があるものだと思います。そういった筆は使う人が思いのままに操ることができる



3. 筆作りの老舗、林三益。近年ではサンリオなどの提携などにより、メイク用品市場で成功を収めています。(写真/呉金石)
4. 林三益の親子は時代の流れに負けず、昔ながらの職人精神をメイク用品に生かしました。(写真/呉金石)

のだそうです。また、林さんによれば1本の筆を作るには少なくとも48の工程が必要で、さらにひとつひとつが職人によって何度も反復される細かい作業なのだそうです。製品の良し悪しはすべて職人の腕と細部へのこだわりによって決まります。

筆作りはまず、素材となる原毛の選択から始まります。毛についた皮を除去した後、毛をまとめて細かい毛や曲がった毛を取り除き、先端をそろえ、数種類の毛を混ぜ合わせていきます。それから毛を切りそろえ、数種類の毛が均一になるように梳き、巻いて筆先の形にして、外側を化粧上毛でぐるんで縛る、といった厳格な工程をひとつひとつ行います。そして再び注意深く牛の角、銀、青花磁器などの材料を選んで筆軸を作り、筆に個性を添えます。

初心を忘れず 伝統と創造を両立

時代の変遷とともに毛筆を使う人は減り、さらに小学校、中学校からも書道の授業は消えてしまいました。1996年に林昌隆さんが店を継いだ時、この老舗店の火を絶やさないため、文房具店、書店、仏具店などへ足を運んで新たな市場を開拓しようと試みました。しかし、

どこへ行っても「必要がないし売れないから筆はいらないよ！」と言われるばかりでした。

悩みに悩んだ林さんはある時、ネイルアートの店に触発され、ネイルアート用の筆を作ることを決心しました。そして2008年に化粧用具市場へ進出を果たし、化粧ブラシブランド「LSY」を立ち上げました。100年にわたる経験を持ち、筆を知り尽くした「林三益」は、豊富な材料選択に関する知識と強いこだわりで、昔ながらの職人精神を化粧ブラシ作りに生かしています。さらに新たなマーケティング手法も取り入れており、近年ではサンリオと提携して「ハローキティ」をデザインした毛筆と化粧ブラシも開発したり、化粧ブラシケースに台湾先住民を象徴する図案を取り入れるなどで愛用者を増やし、メイク用品市場で成功を収めています。

筆と墨の専門店から化粧ブラシブランドへ。「林三益」は分野を越えて見事な変身を遂げ、「筆」という製品を中心に伝統と創造を両立させています。今後はメイク用品事業だけでなく書道文化の普及にも継続して力を注ぐ計画で、書道教室を開設して受講者に筆を持つことで心を静めるとい

う体験をしてもらいたいと考えています。また、筆と墨の専門家が集まるウェブサイトを立ち上げる予定もあり、100年の歴史を持つ老舗には今後も新しい生命が吹き込まれ続けるようです。📍

筆の作り方



1. 使用する原毛を選びます。



2. 原毛の先端をそろえます。

3. 短い毛、細い毛を取り除きます。



4. 骨のくしで原毛をそろえます。

5. 筆先の形にします。

6. 筆先を縛った後、筆軸に差し込みます。



7. 筆軸に取り付けた後、最後の調整をします。

8. 形を整えてのりをつけます。

林三益筆墨専門店

📍 重慶北路2段58号

☎ (02)2556-6433

🕒 月～土

09:00～18:00





伝統の木・錫・陶芸

生活用品に手作りの温もり

文 — 杜韻如

写真 — 施純泰、Woo Collective

手作りの温もりが加わった日用品は単なる道具ではなく、暮らしの美を備えたスタイリッシュな装飾品です。職人の腕とデザイナーのアイデアと想像力で伝統的な工芸材料に手作りの温もりを与え、都市の日常に温かみを添えようする動きが台北で始まっています。

温もりの木で暮らしに彩り

木材は自然の万能素材で、多く

の生活用品に使用できるだけでなく、1本1本異なる独特の木目模様が唯一無二の美しさを生み出します。木材の穏やかな性質と自然の香りからは温もりと安らぎが感じられます。木材のこうした魅力にひかれ、「木質線」の林貴生さんと魚丸さんは木工の世界に飛び込みました。

美術を専門に学んだ林貴生さんは職業高校のときから木製模型

を手掛け、若くして多くの木製模型コンテストの賞を受賞しました。大学時代に陶芸に触れ、美的感覚を磨いたことが、木作品にも刺激を与えました。親友の魚丸さんは編み物が大好きで、編み物用道具を自作するため木工を始めました。こうして二人は共同で、木材と編み糸を素材としたブランド「木質線」を立ち上げました。

「木質線」の主な木作品は日用の小物です。林貴生さんは、自分の作品が買ってくれたた人の家を飾るだけで、実際に使われないのは嫌だと言います。木作品は長く使用していると色々な跡が付いてきますが、それによって魅力が増すのであって、木製の取っ手に長い期間何度も触れていると、手触りはなめらかに、表面は光沢を増してきます。逆に、普段使わない木製品の保存方法が



1



1. 木工品の輪郭線やアーチの角度は一見簡単そうに見えますが、実は作り手のアイデアがたくさん詰まっています。(写真/施純泰)
2. 林貴生さん(左)と魚丸さん(右)は木の穏やかな性質と香りに魅了され「木質線」ブランドを創設しました。(写真/施純泰)

不適切だとカビが生えやすかったり、壊れやすくなります。手作りの木工品は1つ1つが温もりのある芸術作品で、毎日の3食を独特な質感のあるお椀、箸、スプーンなどの木製食器を使って食べたなら、気分が良くなるだけでなく、食べ物がもっとおいしくなると林さんは語ります。

癖のある木材ならではの味わい

木製のスプーンやまな板は一見作るのが簡単そうですが、実際は多くの技やコツが求められます。例えば、浅いプレート製作には輪郭設計から切断、ノミ入れ、アーチ形成、研磨、オイルング、ニス塗りなど数時間に及ぶ多くの工程が必要です。また、木の種類や部位によって硬軟度、木目模様が異なり、採用する技法や力の入れ具合も調整しなければな

りません。林貴生さんは笑いながら「本当にやんちゃな木材もあって、円形に作ったはずが翌日には楕円形になったこともあります。完成品が元のデザインと大きく違うこともよくあります。木材は個性的で扱いにくい素材としか言えず、作り手にとって可愛さと憎さが同居することがよくあるんです」と笑いながら話します。

もっと多くの人に木工品の素晴らしさを体験してもらおうと、「木質線」は興味を持つ人が簡単な木工技法を学び、オリジナルの木工細工の作品をデザイン、製作できる手作り講座も開いています。おもしろいことに、多くの生徒は木工を学んだ後、教室で使っているのと同じ木材を大量に購入し、親類や友人へのプレゼントとして木製の箸や皿、木軸の万年筆などを自作しています。



職人オススメ!

伝統的生活用品

木桶

農村で育った人にとって、木桶はなじみ深い存在のはずです。大小、形状さまざまな風呂桶、おひつ、水桶などは昔の生活に欠かせない日用品でした。特におひつは最高の蒸気炊飯器で、炊き上げた米は食感が良くなり、さわやかな香りも放ちます。

木質線

日曜日(不定期)に台北市の四四南村「簡單市集」(四四南村シンプルマーケット)で出展。木工教室開催中。

📍 松勤街 54 号





3. 若きデザイナー3人が創設した「Woo Collective」は、伝統錫工芸で世界に名を馳せました。(写真/施純泰)
4. 溶接時の温度管理は非常に重要で、全身全霊を込める必要があります。(写真/施純泰)



木工細工は、木材工場から出る端材を再利用できるのがメリットで、端材には大型家具用の高価な木材が含まれていることも多いです。形状がバラバラなため、作り手には巧みなアイデアが求められますが、基礎練習には最高の素材です。このため、林貴さんと魚丸さんは時間さえあればよく大手木材工場まで「宝探し」に行きます。他の人にとっては廃材ですが、二人の素晴らしい手仕事により実用的で美しさも兼ね備える小物に変身し、新たな命が吹き込まれるのです。

伝統錫器を最新の流行に

「錫」の台湾語の発音は「賜」の中国語の発音と同じなため、伝統的な祭礼で使用される卓上香炉、ろうそく立て、花瓶などは全て

「賜福」（幸福を賜る）の意を込めて錫で作られています。古来より、東洋の伝統工芸を代表する錫器は祭祀で使用されてきたほか、センスのいいお金持ちが自身の身分、地位を誇示しようと錫製のやかん、銚子、食器、茶缶、化粧用コンパクトなどを愛用してきました。しかし、生活習慣の変化と、錫中毒に関する誤解から、錫器の使用者は次第に減り、伝統的錫工芸は徐々に衰退していきました。

デザイン科出身の若者3人が創設した「Woo Collective」は、シンプルながらも緻密、かつ東洋文化の特色ある錫工芸で世界的な注目を集めています。「Woo Collective」を創設するまで、3人は錫工芸になじみがありませんでしたが、国立台湾工芸研究発展中

心（NTCRI）の仲立ちで国宝級の錫工芸家の陳万能氏から技能を学ぶチャンスに恵まれたこと、さらに失敗を恐れないチャレンジ精神から、3人は現代設計の美学を取り入れ100年以上の歴史を持つ伝統的錫工芸の新たな形を生み出し、錫工芸が再び脚光を集めるきっかけをつくりました。

錫器を作るにはまず錫の塊を液状に溶かし、鋳型に流し込むかシート状に鋳造します。その後、切断、叩き、溶接、やすりがけ、つや出し、サンディング（砂による研磨）、洗浄を経て完成します。錫器のサイズによって製造時間は数時間から数カ月とさまざまです。「Woo Collective」の頼思羽さんは、「現在、台湾で錫器工場を探すのは難しいため、ほとん



職人オススメ！

伝統的生活用品

香炉

幸福祈願の祭祀は台湾特有の民間風習で、お祈りの際に当然香炉は欠かせません。特に錫製の香炉に「賜福」(幸福を賜る)の意が込められており、廟宇だけでなく、神様や先祖を祀る多くの家庭でも、祖霊への敬意を表すため神棚に錫製の香炉や仏具が置かれます。

Woo Collective

華山 1914 文化創意産業園區 (華山 1914 クリエイティブパーク)、誠品信義店、The One 中山、Fujin Tree 352 などで店舗展開。詳細は公式サイトをご参照ください。



飲酒は適量を心がけましょう。健康に危害を及ぼすおそれがあります。



どの製造工程を自分たちで手掛けなければなりません。ただ、工具一式が必要なガラス工芸や鉄工芸と比べれば錫器製作のハードルは低いです。基礎をしっかりとつかめば、自分自身で模索しながら多くの高度な技にチャレンジできます」と話します。ただ錫は軟らかい金属で、繊細な技法で作らないと壊れやすいです。例えば、溶接時の温度が十分高くないと接合できず、逆に温度が高過ぎると作品が溶けてしまいます。このため、錫器製作では熟練した技術だけでなく高い集中力が求められる、焦りは禁物です。

シンプルな作品に東洋の美

錫は無毒、無味で酸化しにくい安定した金属で、浄水作用も持ちます。このため、ある文献では

錫器について「酒にはコクを、水にはさわやかな甘みを与え、茶の色を保ち、花を長生きさせる」と記載されています。日本の多くの高級レストランでも清酒の酒器として錫の酒杯が使用されており、なめらかなコクを味わえるとのこと。

「Woo Collective」は、自分たちの作品が東洋の美を備え、現代人の暮らしに自然に溶け込んでほしいとの願いから、錫器の表面に木や布のような模様を入れる技術を開発し、シンプルながらもアート心あふれる食器を製作したり、新しいコンセプトの純錫ポアラーを開発したりしました。この螺旋状のポアラーをガラス瓶の口に取り付け、ワインを瓶に注ぐと、ワインが空気に触れやすくな



り、ワインを素早く開き、まろやかな味わいにしてくれます。錫はのどに与えるアルコールの刺激も和らげ、お酒の香りも引き出すため、より深くで口当たりの良い味わいとなります。

こうした実用的で現代人の暮らしにフィットするアイテムは人々の伝統的錫工芸に対する既存概念を覆し、錫器を再び流行りの美しさの象徴にしています。

陶器が人気ブランドに進化

ボウル、皿、コップ、茶器、花器など、陶磁器は用途が広く、私たちの暮らしの至るところに存在します。一見何の変哲もない陶磁器も、オリジナリティーと趣向一つで不思議な美しさを放つようになります。

陶芸は陶土（粘土）、砂などを

材料に、土練り、成形、焼成により創作する芸術です。作り手のイメージレーションで様々な色や図案、形を作ることができ、作品は装飾品として飾ったり、実用的な器としても使用できます。香港出身のアートデザイナーである Monkeyさんと Donkeyさんは、陶芸の高い可塑性に魅了され、陶芸品を素材とした奥深く新しいコンセプトをたくさん生み出そうと決めました。

Monkeyさんと Donkeyさんは、香港では陶芸材料の入手が難しく、焼成技術が少ないこと、中国本土の窯焼き陶芸品は価格は安いものの精度や品質が台湾に及ばないことを知りました。一方、台北市の芸術、文化クリエイティブ産業を取り巻く環境がますますよくなっていることから、より自由に能力を発揮できるよう、台湾に来てブランド「Monkey And Donkey Design



職人オススメ！

伝統的生活用品 急須

台湾の茶文化は、お茶の入れ方や、茶器にこだわりがあり、彫刻、絵付け、はめ込みなどで装飾が施された繊細優美な茶器は観賞価値を大きく高め、芸術コレクションとなるだけでなく、これでお茶を入れれば、茶の甘み、コク、おいさがさらに引き立ちます。

Monkey And Donkey Design 驢仔窯・馬騮燒

西門紅樓 16 工房 2 階 D5

成都路 10 号



「驢仔窯・馬騮燒」を創設することを決めました。

創作に対する二人の理念はブランドロゴからはっきりと伺えます。Monkey（モンキー）とDonkey（ドンキー）は二人の氏名の広東語読みで、面白さを持った王様のイメージは「実力はあるが、個性的で生き生きとした風格を失わない」ことを象徴しています。MonkeyさんとDonkeyさんは陶芸だけでなく、人物彫塑、アニメのイラスト、インスタレーション、動画・静止画、ミクストメディアなど多様な分野に長けており、国外で多くの出展・受賞歴を持ちます。こうした経歴がまた、二人が創作において伝統的なしがらみ

を打ち破るのを容易にしています。二人の陶芸デザインがしばしば自由奔放で、あらゆる要素を網羅しているのも納得です。

想像力をかき立てる独創性

台北市西門町にある歴史建築物「西門紅樓」の内部を改装した「西門紅樓 16 工房」の2階の店には、色とりどりの茶器セットや、花瓶にもコップにもなるアイスクリームコーン型の陶器、漫画の吹き出し型プレートなどが陳列され、オリジナルのデザインが見る人のイマジネーションをかき立てます。MonkeyさんとDonkeyさんは、お客さんとの触れ合いを通じ、ある面白いことに気がきました。それは、海外からの観光客

は通常、作品のデザインとオリジナリティーが気に入って購入しますが、台湾人はおしなべて「機能」を優先することです。二人は、暮らしをより素晴らしいものにできるのであれば、考慮する点が美しい外観にせよ実用性にせよ、個人の好みに応じて作品を選べると考えています。

陶器を製作する上で最大の難関は、大半が釉薬掛けと焼成の工程です。窯の中の温度変化と焼き時間が作品の成否を決める大きな鍵となりますが、最もコントロールが難しい工程でもあります。Monkeyさんは苦笑いしながら「新しい作品を窯に入れて焼くたびに悩ましい思いにとらわれます。2、3日経たないと作品がどう焼き上がったか分からないからです。釉薬の色合いや文様が当初の予想と大きく異なる可能性もあります。ときどき嬉しいサプライズもあります」と話します。

このため、手作りの陶器はそれぞれ世界に一つだけのものとなっています。デザインや作り方が同じでも、焼き上がりが同じということはありません。ただ、これこそが手作りの魅力とも言えるでしょう。📌

5. 香港出身のMonkeyさん(右)とDonkeyさん(左)は台北の文化クリエイティブ環境にあこがれ、台湾でのブランド創設を決めました。(写真/施純泰)
6. 色とりどりの茶杯が人々の伝統的陶芸品に対する既成概念を打ち破りました。(写真/施純泰)





(写真/施純泰)

華やかな輝きを支える技

ランタン職人・陳祖榮

文 — 樊語婕
写真 — 施純泰、陳祖榮

今年の台湾ランタンフェスティバルに登場した高さ12メートルの「祥猴献桃」や、2014年台北ランタンフェスティバルを彩った「孔子周遊列国」、「昭君出塞」などの優美なランタン。これらはすべて国宝級のランタン職人・陳祖榮さんの手によるものです。2013年に台北ランタンフェスティバルに出品された「伝統芸陣燈」は、台北を代表する作品とし

て初めて海を渡り、同年に韓国ソウルで開催されたランタンフェスティバルで清溪川を鮮やかに彩りました。

陳祖榮さんの工房を尋ねると、数えきれないほどの大小のランタンが並ぶ中にさまざまな種類の保護メガネ、ペンチ、ベルベット、リボン、電球、鉄線、電気溶接機などの工具が置かれていま

す。これらの道具から、ランタン製作の複雑さと奥深さが垣間見えます。

中年から始めた ランタン作り

陳祖榮さんがランタン職人になったいきさつは、中年になってから人生の方向転換をするお手本だと言えるでしょう。復興高級商工職業学校を卒業した陳さん



1. 昨年の台湾ランタンフェスティバルの「鳳凰嬉春」。陳祖栄さんの創作人生で最大の挑戦でした。(写真／陳祖栄)

は、安定した収入を求めて中国電視（テレビ局）のニュース部門に就職しました。取材用車両の運転手から主任に昇格し、安定した生活を送っていましたが、心の中の創作魂はうずうずしていました。1998年、観光局主催のランタンコンテストに初めて参加して優秀賞を獲得し、ここから仕事とランタン作りの両立が始まりました。

2009年に定年退職した陳さんはついに自分の会社を立ち上げ、ランタン作りに全身全霊を投じるこ

とになりました。63歳の彼は笑いながらこう言います。「ランタン作りはよくできれば名誉とお金の両方が手に入りますが、とても大変で、ストレスも大きいです。ランタン作りを始めてから、旧正月休暇にちゃんと休んだことはありません。ランタンフェスティバルの前で日夜準備に忙しい時ですから。」

ランタン作りを始めて約20年。人生最大の挑戦は、昨年の台湾ランタンフェスティバルに出品した「鳳凰嬉春」でした。「高さは14メートル、翼は8メートルあり、屋外の強風や大雨などにも配慮しなければなりません。鳳凰が本当に飛んでいってしまわないか心配でしたよ！」陳さんは先輩に教えを請い、鉄筋で構造を強化する方法を鉄工場と毎日検討しました。そして10人のチームで3カ月の時間をかけ、ついに重さ1トンを超える大型作品が完成し、鳳凰の幻想的な姿が現れたのです。

ランタン作りは 武芸十八般のごとし

伝統的なランタン職人とは違い、陳さんの創作はいつも下書きを描くことから始まります。これはランタンのバランスを正確に保つためだそうです。陳さんは異

なる厚さのベルベットを使って光に強弱をつけたり、明るさの異なる電球を使って光源を分散させたり、カラフルなLEDライトを使用したりします。また、モーターで頭を動かしたり、回転させたり、まばたきをさせたり、さまざまな動作を作り出すだけでなく、リモコン装置によるLEDライトの変速変色点滅も取り入れています。さらに、雨による漏電も考慮して電球のプラスチックカバーも開発したそうです。

毎回仕事に集中しだすと、陳さんは長い間不眠不休で過ごします。2013年の台北ランタンフェスティバルに出品した「伝統芸陣燈」は数十個のランタンからなる作品で、製作に2カ月かかりました。製作にあたって広く書籍を読み、伝統的な芸陣（寺の祭りで行われる民間芸能）にまつわる故事を研究し、デザインの詳細を組み立てました。「ランタン作りはまさに“武芸十八般”です。設計、骨組み、構造、鉄工、電気工作、溶接、色づけなどすべてを理解していなければなりません。さらに組立、運送などの細部まで考慮して、初めて皆さんに美しいランタンをお見せすることができるのです。」



2. 今年の台湾ランタンフェスティバルに登場した「祥猴献桃」は、見る者をとりこにしました。(写真/陳祖栄)

ランタンはお祭りで使われるものなので、めでたい雰囲気を作ることがとても重要だと陳さんは考えています。昼間は芸術品として、夜はまぶしく光る照明装置として、昼夜問わず楽しめるものにしておくはなりません。「素晴らしいランタンは、まず人との縁がなくてはなりません。見る人が一目見て気に入ってくれたのなら、それは作品の色、バランス、外観などがぴったりマッチしているということです。このほかに、構造と技も重要です。全体の組立、布張り、鉄線の枠作りと結合、色

つけと飾りつけ、どれもおろそかにできません。」

伝統のランタンに 輝く台湾の光

陳さんは中華ランタン芸術学会の理事長を務めています。忙しい合間を縫ってランタンアートの推進に尽力しており、数年前から拘置所で製作技術を教えたり、母校の復興高級商工職業学校へ赴いて教壇に立ったりしています。来年の台湾ランタンフェスティバルが開催される雲林県では、県各地の学校の先生たちを指

導し、ランタン作りの技がキャンパスに根づくことを願っています。また過去には台湾代表として日本、シンガポール、マレーシア、韓国などを訪れて技術を伝え、台湾の「光」を世界に広めています。

すでに国宝のランタン職人と呼ばれている陳さんですが、「作りながら学び、他の人の作品も学習しています。色づけやバランスなどよりよいものにしたいですね」と謙虚に話します。2017年の台北ランタンフェスティバルは北門と西門町周辺に会場を移して行われますが、いかに現地の風景と作品を融合させるか、陳さんはすでに設計を始めています。新たな創意に満ちた作品が私たちを楽しませてくれることでしょう。📌

(写真／ Bernd Lauter)

デザインで暮らしを改善

レッド・ドット賞 CEO の信念

文 — 蔡舒滢

写真 — Bernd Lauter、レッド・ドット・デザイン賞

死神がタイヤに銃弾を撃ち込み、大きな破裂音が響きました。車はブーメランのように激しく横転、回転し、周囲の人は息を呑みましたが、幸い運転手は無事でした。最近遭った交通事故について、世界的なデザイン賞「レッド・ドット・デザイン賞」の創設者兼 CEO のピーター・ゼック教授は、携帯を取り出し、事故の写真を見せながら言いました。「もし 50 年前に事故が起きていたら、

私はとっくに死んでいたでしょう。でも私は無傷だったし、ポコポコになったフェラーリの横で葉巻を吸いました。私にとって、デザインの意義はここにあります。つまり、良いデザイン、良いテクノロジーは利便性と安全性を高め、暮らしをより簡単にしてくれます」。

「国際化」が成功の礎

ドイツ出身のゼック教授は、国

際インダストリアルデザイン団体協議会（ICSID）、国際デザイン聯盟（IDA）の会長を歴任。レッド・ドット・デザイン賞の創設者兼 CEO、世界デザイン首都計画の発起人でもあり、30 年余りにわたってデザインの推進、学術研究、工業、社会デザインを推進してきました。還暦を迎えた後も休むことなくデザイン事業を進める世界的なデザインの専門家、顧問、提唱者であり続けます。

世界3カ所目の「レッド・ドット・デザイン・ミュージアム」が台北市の松山文創園區にオープンしたことに加え、台北市が「2016年世界デザイン首都」に選ばれたため、ゼック教授は台北を何度も訪れ、台北の文化的な体質や建築・空間デザインに深い感銘を受けたそうです。ゼック教授は「デザインと社会構造は密接な関係があります。台湾の教育と社会の風潮はとても自由、オープンで、台北市は台湾の首都として早くから世界と広い分野でつながってきました。台北のデザイン力に勢いがあるのはこのためでしょう」。

ゼック教授は自身の生き立ちに触れ、「父親は第二次世界大戦中にドイツ人のために働き、その後徴兵に応じて英国軍人となり、母親と知り合って結婚しました。私は幼いころから欧州各地の表情の異なる地域文化とさまざまな言語に触れてきたため、国際化は私の日常でした」と語ります。

これと同様に、ゼック教授は、台北市がここ数年視野を広げ、国籍の違いにとらわれることなく各分野のエリートを集め、国際化の視点から革新的な社会デザインを強化していることや、より良い社会をいかに構想し、立て直し、実現するかについて、台北市民の姿勢がより主体的、積極的になったことに注目しています。

ゼック教授は台湾では長きにわたってデザインに対する理解とニーズがあり、デザイン産業の生態系や構造もとても興味深いと考えています。活力いっぱいの中小デザイン会社が多い上、台湾は早くからレッド・ドット・デザイン賞に出展し、ノミネート作品が年々増えており、パフォーマンスもますます良くなっていると話します。

ゼック教授は「ドイツ、アメリカ、イギリス、フランス、日本などの国はそれぞれの国の人々の好む傾向が強く、これらの国に商品

を売り込むのは難しいです。レッド・ドット・デザイン賞受賞作品でも同じように苦労します。こうした壁を乗り越える方法として、私は経歴の異なる国際的な審査員を招へいし、多元的な視点からデザイン作品を審査しています。その後、レッド・ドット・デザイン賞をもっとよく知ってもらおうと、アメリカとアジアで多くの展覧会を開きます。これは、私にとってグローバル化という成功に向けた第一歩です」と話します。その上で、国際化に一歩ずつまい進する台北市も各分野の人材が豊富な今、同様の経営モデルを使い、よりマクロで多元的な視点で世界全体を見つめ、世界に台湾のデザイン力を発信できるよう台湾全体をけん引できると提言しました。

デザインで社会に ブレイクスルー

虚勢を張らず、世に媚びない。ゼック教授はデザインに対してとても前向きで、現実的です。ゼック



1. 昨年のレッド・ドット・デザイン賞で、新鋭デザイナーの王奕方さん(左)、陳萱恩さん(中)、陳潛心さん(右)、林禎瑩さんが結成したチームが「ジュニア賞」を受賞しました。(写真/レッド・ドット・デザイン賞)

教授は、家具、家庭用装飾品、食器はどれも「工芸(クラフト)」で、本当のデザインとは工業製品であり、暮らしを飛躍的に改善してこそ経済効果を生み出せると考えています。「新たなテクノロジーと新たな材料はデザインの動力源であり、人々の暮らしの質を高めることがデザインの任務です。デザイナーは自分にどのような貢献ができるか、自分たちの暮らしをどのように変えるかを考えなければなりません。ブランドやスターデザイナーを盲信する必要はありません。良いイスを作ったところでイスの数が増えるだけです。ですが、スマートフォンやスマートカーをデザインすることは、人類社会の発展に大きなブレイクスルーをもたらします。しかし、こうしたデザイナーは往々にして無名です。『われわれの暮らしをより便利に、快適にすること』に重点を置き、その他はお楽しみとしたらいいのです」と話します。

昨年のレッド・ドット・デザイン賞で、台湾科技大学の陳潜心さん、陳萱恩さん、政治大学の王奕方さん、林禕瑩さんら新鋭デザイナーが結成したチームが「ジュニア賞」を受賞しました。同チームが設計した作品は、「ブラインド・ナビ」という視覚障害者専用のナビゲ

ーションアプリです。社会のニーズに応えるため、視覚障害者が道路を認識する方法に倣い、視覚障害者が利用する複数の感覚の情報を組み合わせています。この作品には、デザインによって暮らしを向上させようというデザイナーの社会的責任感が強く出ており、ゼック教授に強い印象を残しました。

台北市はここ数十年間、街の姿をあらためてきました。複雑な交通システムや医療介護・文化インフラの整備などにより、絶え間なく変身を遂げ、世界の注目を集めてきました。台北市の「2016年世界デザイン首都」のメインコンセプトは「進化を続ける都市」で、中でも社会問題に注目が集まります。デザイナーはデザインによって社会の構造的問題や個別の 이슈を解決するために、最新のテクノロジー、生産技術、材料処理の基礎知識を身につけ、日々重要度を増す社会デザインのニーズに応える必要があります。これはまさに、ゼック教授が話す「暮らしをより便利に、快適にする」精神を反映しています。

デザインの雄に舞台提供

レッド・ドット・デザイン賞は創設以来、ホームページ、専門書籍、展覧会、ミュージアムを展開

レッド・ドット・デザイン賞

レッド・ドット・デザイン賞はドイツのiFデザイン賞、米国のインターナショナル・デザイン・エクセレンス賞(IDEA)と並ぶ世界3大デザイン賞の一つです。ドイツのデザイン機関「ノルトライン・ヴェストファーレン・デザインセンター」が1955年に創設し、毎年60カ国以上から1万点以上の作品が寄せられています。受賞者はドイツ・エッセンのレッド・ドット・デザイン・ミュージアムで出展したり、授賞式に参加することができます。



reddot design award



2. 世界3カ所目の「レッド・ドット・デザイン・ミュージアム」が台北市の松山文創園區にオープンしました。(写真/ Bernd Lauter)

し、次は専用テレビチャンネルを開設します。ゼック教授は、デザインの雄の榮譽をたたえ、その価値を認め、受賞者にさらなるチャンスを提供することは、人類の文明を記録し前進させる重要な任務であり、レッド・ドット・デザイン賞の創設趣旨でもあると説明しました。ゼック教授はレッド・ドット・デザイン・ミュージアム参観を「メッカ（聖地）巡礼」に擬えて、デザイン界の影の雄が自身をアピールできる舞台を提供していると話します。台北松山文創園區に「レッド・ドット・デザイン・ミュージアム」がオープン

したことは、松山たばこ工場跡地がデザイン産業の集積地となった証拠であり、今後、台湾の創作エネルギーが勢いよく発展していくことを予見させます。これについてゼック教授は、台湾人に対して、レッド・ドット・デザイン・ミュージアムで受賞作品の輝きだけでなく、作品1つ1つの裏側にあるストーリーを深く知ってほしいと呼び掛けています。

非現実的な夢を見ないゼック教授は、地に足の着いた自身の生活態度に触れ、真剣な態度は他者の信頼を獲得でき、努力の裏側に

は情熱と責任感が必要だと訴えます。「私はどういう状況で死ぬかは分かりません。私はただ、朝起きてから新たな1日をどう計画して、生活をもっと素晴らしいものにしようかと考えています。毎日どんな些細な変化があるかを観察しているのです」。ゼック教授はまた、台北が今後も社会環境への情熱と責任感を抱き続け、革新のエネルギーを高めてほしいと期待を示しました。テクノロジーを愛し、素晴らしいライフスタイルの提案を取り入れようとする人は、そんな台北の虜になること間違いありません。📍

旅のお役立ち情報

桃園国際空港から台北市までのアクセス

台北市と桃園国際空港の行き来には、安くて便利な空港バス、安全で速いタクシー、専門的で質の高い送迎サービスがあります。いずれも所要時間と料金が異なりますので、必要に応じてお選びください。

タクシー

乗り場：

第一ターミナルの到着ロビーの北側、第二ターミナルの到着ロビーの南側

片道料金：

メーターの料金×0.15 + 高速道路料金。
台北市内まで約 NT\$1,100 元

第一ターミナルタクシーサービスセンター

電話：(03)398-2832

第二ターミナルタクシーサービスセンター

電話：(03)398-3599

空港バス

乗り場：

第一ターミナル一階の到着ロビーの南西側、第二ターミナル一階の到着ロビーの北東側

運行会社：

国光客運、長栄巴士、建明客運、大有巴士の4社

片道運賃：NT\$85 元～ NT\$145 元

所要時間：

路線によって約 40 分～ 60 分 (大有バスは停車バス停が多いため約 60 分～ 90 分)

運行間隔：

約 15 分～ 20 分間隔

台北 MRT

営業時間：06:00 ～ 24:00 24 時間お客様専用ダイヤル：(02)218-12345

種類	料金
 IC トークン (片道切符)	NT\$20 元～ NT\$65 元
 悠遊カード (EasyCard)	価格：NT\$100 元 / 枚 (チャージ金額を含まない)。毎回利用時に料金が差し引かれます。コンビニまたは特約店でチャージ可。
 一卡通 イーカートン (iPASS)	MRT 各駅のインフォメーションカウンターなどで販売している買取式 (デポジットと使用可能金額を含まない) のプリペイドカード。 <ul style="list-style-type: none"> 対象：誰でも使用可能。 価格：NT\$100 元 / 枚 (チャージ金額を含まない)。 購入場所：リアル店舗、ショッピングサイトおよび MRT 各駅。 MRT 乗車料金が 1 回ごとに 2 割引になります。 乗換割引：1 時間以内にバスと MRT 間の乗換をした場合、1 回につき NT\$8 元お得になります。
 MRT 1 デイパス	NT\$150 元
 台北観光バス (Taipei Pass)	バス或いは MRT の改札機で使用し始めてから、有効使用期間内に何度でも台北 MRT、台北市及び新北市のバスに乗車できるパスポート (Taipei Pass マークのあるバス) です。MRT の各駅で販売しています。 1 デイパス：NT\$180 元 2 デイパス：NT\$310 元 3 デイパス：NT\$440 元 5 デイパス：NT\$700 元 1 デイパス (猫空ゴンドラ版)：NT\$350 元
 台北 MRT フリーパス (Taipei Metro Pass)	24 時間バス：NT\$180 元 48 時間バス：NT\$280 元 72 時間バス：NT\$380 元

お知らせ

市のサービスを便利にご利用いただけるよう、台北市では 1999 市民ホットラインを実施しています。市内電話、携帯電話、インターネット電話 (公衆電話は除く) からフリーダイヤル「1999 台北市民ホットライン」をご利用ください。「1999 台北市民ホットライン」は、担当者への電話転送後の通話時間を最長 10 分としています。限りある資源を大切に、通話の際は要点を簡潔にお話下さい。詳細については 1999 にダイヤルするか台北市研考会のサイト (<http://english.rdec.gov.taipei/>) でご確認ください。



緊急連絡先一覧表

警察 / 110

犯罪、交通事故、そのほか警察の協力が必要な場合に利用

消防 / 119

火災、死傷事故、そのほか緊急救助が必要な場合に利用

婦女児童保護専用ダイヤル / 113 内線 1

家庭内暴力または性的暴力の被害者のための 24 時間緊急支援、法律相談、カウンセリングサービス
もし 110 または 119 に電話して言葉で困った場合は、24 時間サービスホットライン 0800-024-111 に電話してサポートを依頼することも可能です。

生活に役立つ連絡先

機関	電話番号	台北市観光案内所
台北市民ホットライン	1999 (台北市外からは 02-2720-8889)	台北駅トラベルサービスセンター (02)2312-3256 台北市北平西路 3 号 1 階
英語による電話番号案内	106	
国際電話ダイレクトコール カスタマーサービス専用ダイヤル	0800-080-100 内線 9	松山空港トラベルサービスセンター (02)2546-4741 台北市敦化北路 340 之 10 号
時報	117	
天気予報	166	MRT 西門駅トラベルサービスセンター (02)2375-3096 台北市寶慶路 32 之 1 号地下 1 階
道路状況	168	
交通部観光局 トラベル相談ホットライン	0800-011-765 (フリーダイヤル)	MRT 劍潭駅トラベルサービスセンター (02)2883-0313 台北市中山北路 5 段 65 号
交通部観光局 トラベル苦情専用ダイヤル	0800-211-734 (フリーダイヤル)	MRT 北投駅トラベルサービスセンター (02)2894-6923 台北市光明路 1 号
外国人台湾生活相談ホットライン	0800-024-111	MRT 台北 101/ 世貿駅トラベルサービスセンター (02)2758-6593 台北市信義路 5 段 20 号地下 1 階
観光局台湾桃園国際空港 トラベルサービスセンター	第一ターミナル (03)398-2194 第二ターミナル (03)398-3341	梅庭トラベルサービスセンター (02)2897-2647 台北市中山路 6 号
国際貿易局	(02)2351-0271	ミラマー・エンターテインメント・パーク トラベルサービスセンター (02)8501-2762 台北市敬業三路 20 号
外貿協会 (TAITRA)	(02)2725-5200	ゴンドラ猫空駅トラベルサービスセンター (02)2937-8563 台北市指南路 3 段 38 巷 35 号
台湾観光協会	(02)2594-3261	大稲埕ビジターセンター (02)2559-6802 台北市迪化街 1 段 44 号
台北市日本工商会	(02)2522-2163	
外交部	(02)2348-2999	
外交部市民サービス専用ダイヤル	(02)2380-5678	
警察ラジオ局	(02)2388-8099	
タクシー呼出サービス 英語専用ダイヤル	0800-055-850 内線 2	
消費者サービス専用ダイヤル	1950	
中央健康保険局相談専用ダイヤル	0800-030-598	
エイズ相談専用ダイヤル	0800-888-995	

以上出典：

外国人在台生活服務 (Information For Foreigners) / 電話：0800-024-111

中華民國交通部観光局 / 電話：(02)2349-1500

※ 下地が茶色の部分は英語ダイヤル



TAIPEI
MARATHON

臺北

マラソン
2016

2016 / 12 / 18 SUN

フルマラソン / ハーフマラソン

まもなく開催される台北マラソン2016。今年は特別な趣向を取り入れました。
今年のテーマ「古都パレード」、コースは
台北の旧市街地を囲んだ4つの門：東門、南門、西門、北門を通ります。
タイムトンネルをくぐり抜け、台北の歴史と共に走りましょう。

www.sportsnet.org.tw

RUN MY WAY!

42.195 km
2:02:57

広告



2017



台北カウントダウンイベント

12/31

07:00PM-01:00AM

台北市政府市民広場

三立都会台チャンネル30で生放送

詳細は台北旅遊網でチェック



伍佰 A-Lin 玖壹壹 SpeXial 周湯豪 安心亜 八三天 愷樂 吳思賢 李佳薇 Gentleman BOXING

主催 / 觀光傳播局

三立電視

TAIPEI IOI

協力 / vidol

三立新聞網

best

TAIPEI



2017臺北世大運
UNIVERSIADE
2017.8.19-8.30

特別協力 / 台灣大哥大



聯邦銀行

OPPO

中華航空 CHINA AIRLINES

live.me

広告